



湯沢七夕絵どうろうまつり 2020

～伝統を未来へ繋げるために、今できること～



制作：秋田大学 地域連携ゼミ 【湯沢市観光物産協会班】

制作の目的

秋田大学教育文化学部地域文化学科では、地域連携ゼミという授業の一環で、秋田県の企業・団体と連携して、様々な地域課題を解決し、盛り上げていこうと活動しています。私たちが所属する湯沢市観光物産協会班では、例年、お祭りの運営業務に携わっていますが、今年度はコロナウイルスの影響で、お祭り 자체が中止になってしまいました。

そこで、湯沢七夕絵どうろうまつりの伝統を絶やさず、現状や人々の思いを記録として残すことで、後世へと伝えていきたいという目的で、この冊子を制作しました。

目次

☆湯沢七夕絵どうろうまつりとは…

☆インタビュー記事

湯沢市中心商店街の方々

絵師さん

お祭り運営の方々

有志イベントへの来場者

☆湯沢七夕絵どうろうまつりに関するアンケート調査

☆塗り絵コンテスト「#みんなでゆざわの絵どうろう」の作品紹介

☆最後に

湯沢七夕絵どうろうまつりとは…

開催期間:毎年8月5, 6, 7日の3日間

開催場所:秋田県湯沢市の中心商店街(サンロード商店街・柳町商店街・大町通り商店街・中央通り商店街)

元禄 15 年(1702 年)、秋田藩佐竹南家七代目義康公に、京都の公卿鷹司家から「おこし入れ」された姫君は故郷が恋しく、寂しい思いをしていました。

そのような姫を慰めようと、湯沢の人びとは姫の故郷のお祭りを再現することにしました。

京都への郷愁やるかたなき思いを五色の短冊に託し、青だけに飾り付けたのが「湯沢七夕絵どうろうまつり」の始まりといわれています。

300 年以上の伝統を持つ、湯沢三大祭りの一つです

(犬っこまつり・七夕絵どうろうまつり・愛宕神社祭典 大名行列)

現在では、佐竹南京都奥様のご観覧や七夕コンクール、七夕マラソンなど様々なイベントも開催されています!



インタビュー記事

改めてまつりを見つめ直し、祭りに関わる人々同士でそれぞれの思いを共有できる良い機会になるのでは？



商店街の方々

- ☆湯沢市駅通り商店街
- ☆湯沢市柳町商店街
- ☆湯沢市中央通り商店街
- ☆湯沢市大町商店街

絵師さん

- ☆首藤さん/阿部さん/高橋さん

運営の方々

- ☆湯沢市観光物産協会
- ☆湯沢七夕絵どうろうまつり実行委員長

有志イベントへの来場者

湯沢市駅通り（サンロード）商店街 協同組合 理事長：滑川明夫さん

Q1. これまで毎年開催されてきたまつりの中止を受け、どのように感じましたか？

改めて感じたことやまつりに対する考え方にはどのように変化がありましたか？

例えば七夕まつり、お盆だとか、季節においてやらなければいけないことが、必ずあるわけですね。何もかも中止になってみて、やっぱり祭りがなければ、一年が何もなくなってしまうということに気がついたのが一番でしたね。自分が携わっていないお祭りであっても、このお祭りがきたら秋になったとか、夏になったとか、春が来たとか、そういう気持ちがあるのに、今年はコロナというキーワードだけで、何があってもコロナしか浮かんでこない。

自分達が郷土に生きていく中の体内時計に、全て組み込まれたものがお祭りであり、全ての文化であるってことが、一番自分たちには必要なものだ、っていうのがわかった。私も幼少の頃から、七夕まつりってものに対して、参加しなければいけないところにいたわけなので、やっぱり毎年のことになると何となく「たまには誰か代わりにやってくれないかしら」とか思うのね。だからそういう意味では、（絵どうろうまつりが）今年やらないっていうことに対して、多少の安堵感があったって一面もあったんだけど。やっぱり何にもなくなつたってことを実際に受けてみると、「いや、これではいけないんだな」っていうのを、改めて理解した。だからやっぱり自分の田舎に生きている体内時計には全て必要なものだ。

—ここで暮らしてどれくらいになるんですか？

生まれてからずっとって言っても構わないだろうから、ほぼ65年間になります。私なんかは小さいときから商売やってる店だから、七夕とかお祭りってなると忙しかったのよ。朝4～5時に起きて、七夕を飾り付けして、それで営業を始めなきゃいけないから、七夕は4時起きとか決まっていて。ちっちゃくても誰でも手の空いている者はやらなければいけない。これは本当に身に着いたものでね、やるのが当たり前で。若い頃に遊んで歩いて、七夕まつりの前の日に大阪行ったら、親父から電話かかってきて、「七夕だ、帰ってこい！」って言われて（笑）バイクで帰って来て、朝4時半に七夕つけた記憶ありますよ（笑）皆そうやって成り立ってるんだね。

—本当にみんなで作り上げるものなんですね。

そうだね！これはもう本当に郷土全体で作っていくって形でやってかなければ。やはり以前だと、商店街、会場になってるところってのは、皆それなりに経費をかけても良かった時代ってのがあって。今はそういう意味では経費がかけられなくなってきて、いろんな意味で維持していくことが難しくなってきてるから、やっぱり全員参加の方向でもってっていただくってのが最良の方法だと思います。

Q2. 今年度は有志によって、サンロード商店街や柳町商店街でイベントが行われています。こうしたイベントが開催されている今の心境を教えてください。

打ち合わせ等で非常に葛藤があったんですよ。コロナっていうことで人を集めることをやっていいものなのかどうか。それは最後の最後まで運営方法等も含めて問題となって。**でも、もう何にもないということではなく、一つの光はぱっとでもついたほうがいいかしらって思いますね。**基本的には密にならないように、車から見やすいように、とかっていうアイディアのようだったので、それだったら良いかな、と思います。

ただまあ、お祭りっていうもの全てに対して変化が必要かもしれない。だからスポンサーの在り方とか、そういうものを、これだけ自分たちが必要としているものであれば、人に任せずに自分達でも、っていうような参加意識は市民全員が持たなければいけないものなんかないかなって思う。誰かがやってくれるんじゃなくて、自分達がやらなければできないもの。それが一人ではできないからみんなでやれないかしらっていう方向性だと思うね。益々人は少なくなっていくはずだし。秋田県に住んでいる人があのペースでいなくなってるわけだから。この（人口減の）スピードってのはすごいなって感じるから、お祭りだって何だって、衰退していくスピードって凄いんじゃないの？って。やっぱりそういう意味では、**お祭りっていうのを維持していくためには、本当に変換点になったな**って気はする。

Q3. 私たちがこれまでしてきたアンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、今後まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

不安はすごく大きなものがあるんじゃないですかね。やっぱり人がいなくなるわけだから、もうやりようがないっていうのは凄くあって。だから僕たちは全国各地の同じ学校の卒業生、同期の人たちから寄付を集めて、絵どうろうを飾ってあります。60歳の還暦で、やはり郷土に何かひとつ良いことをしたいっていうことで、今のところ続いています。私たちも古希まで、それを少しでも続けられればって思っておりまます。結構卒業生の70~80%近いかたちで寄付をいただきますよ。1番多かった時は、8割近くきたね。少ない時でも70%くらい。お祭りって楽しかったなって思う気持ちと、帰ってくると郷土が衰退しているのを見るっていうことと二重じゃないかな。間違いなく衰退していくから（笑）秋田県人口の減少の数を見ればね、そのペースである程度進まざるを得ないっていうのは、どうしようもないと思うから。その中でできるだけ開催できていって、そして**ふるさと**に対しての想いを語れる場所を作ればいいんじゃないかなっていう気はするね。大変良い町ですよ。

Q4. 私は関東の出身で、湯沢の絵どうろうまつりのような、地元のお祭りがなかったのですが、絵どうろうまつりに関わっていて、どんな時にやりがいや喜びを感じますか？

若い人だとそういう人は多いかもしれない。七夕まつりとご先祖様は大事にするものですよ。お祭りっていうもの、皆が集えるようなものっていうものは、無いものであっても、つくれる可能性はあるからね。それで日本全国のお祭りを見て歩いて、良かったものを参考

にして、全く別のお祭りっていうのを考えて、若い人たちが楽しめる機会を作つてあげるっていうぐらいは非常に良いことじゃないかなっていう気はする。秋田県はなかなか PR が下手だから。

—絵どうろうまつりの PR でもっとしてほしい部分とかありますか？

マスコミに取り上げてもらうっていうのは、金がかかるないで PR できる 1 番の方法。それこそ東京あたりで「七夕絵どうろうまつり特番」みたいのがもし流れたとすれば、よほどね。今の go to キャンペーンではないけど、地方の良いお祭りっていうのは、取り上げられるのは、秋田で言えば竿燈祭りとかで。それで七夕といえば仙台とかって言うけど、同じ七夕でも全然違う七夕があるので、これは湯沢の魅力だと思うのね。川原毛（大湯滝）だと温泉だとか、色々見て歩くと、日本全国に誇れるだけのスケールのものってたくさんあって。例えばラベンダーだとか、蕎麦畠みたいなのとかあったときに、これって湯沢のちょっと外れたところの田んぼに電線がなければ、もう湯沢の田んぼのスケールほうがすごいんじゃないかなって思う（笑）逆にね、人を集めている観光地行つても、こんなにいっぱい私たちの身近にあるのに、誰も来てくれないっていうのは、やっぱりきっかけがないっていうか…わずかな損してる部分を、損しないでいけば…。観光の面白いなって思う部分は、何でもお金をとれるところ。何でもお金になるのが観光だなと思って見てきたね。観光の根源はなんにでも値段をつけられる。私たちはみんなタダで提供してるから、観光でないんだろうけど（笑）それで、お金を払った以上のものを提供するってのが観光だ。

Q5. 今後の絵どうろうまつりを、商店街としてはどのように盛り上げていきたいですか？

商店街としてはできるだけ、見て楽しかったって思えることを継続していきたいと思います。お祭りっていうのは基本的にはやってる人間が楽しいと思わなければ、他から来て楽しいと思うわけがないんだから。だから、やっぱり 1 番は自分たちがはしゃげるくらい楽しいお祭りを計画できればと思います。子供の頃は、はしゃげるだけで楽しかった。

—昔と今とで、何か違いはありますか？

同じことをしても私たちが若かったんだね（笑）おたくたちは何か転んでも笑えるでしょ。私たちは転んでも笑えない（笑）本当に七夕が来るのを心待ちにしてた。ああいうのがやっぱりね、お祭りとしてね、ほしいね。だから来ていただいても、「ああよかったです」って言つていただけるだけの人力と財力が揃わなければいけないね。

—やっぱりお金がかかるんですかね。

お金はかかる！私たちが同期の人間に声をかけて、作つていただくとうろうも、一回あたり約 20 万以上かかります。何とかやりくりをしながらやってるけど、あれを自分の家だけでやる、ってなっていくと本当に大変です。今は七夕の竹をさす穴があいてて、皆でドンとさせば終わりなんだけど、以前はそれ専門の人がいて、竹を 1 個ずつ立てていって、それに

対してお金払うわけだけど、皆やってもらって。そういう意味では、今は手がかかるないよう、手がかかるないようにってやってきてるね。

—昔のほうが手がかかるたんですね。

手がかった。お祭りっていうのは、ある意味では商人の見栄の塊！みたいなもので。例えば、隣の家で竹を買いくにいくわけだね。そうすると竹1本2万くらいしたんだ、当時ね。それで、隣の家が2万円で買えば、それより高いやつ買おうって話をして（笑）彼らは2万5千円で買おうって話が飛び交ったりして（笑）**それだけ商人が忙しく、お客様にも1年のお返しをするって意味も込めて、やっていた時代。**同じことを今しようと思ってもなかなか難しいから。色々なやり方っていうのを考えて、やってかなければみんなアウトになるね。でも少しずつ良くなってきたような気がする。集金方法がうまくなつた。財力！（笑）

—来年に向けて意気込みをお願いします。

来年は今年なかっただけエネルギーを充電して、また同じようなかたちで日本全国の友達に声をかけて、**日本全国の友達の協力を得て、七夕絵どうろうを上げたい**と思います。やっぱり心配して、皆から「やるのか？」って電話かかってくる。ありがたいことだと思う。

—そのおかげでまだ続いていますもんね。

うん、やっぱりね、皆に声を掛けたら、自分が想像したものとスケールが違うだけの反響で返ってきた。湯沢にいる人間で話し合ったときに、七夕絵どうろうを上げたいんだよって話しても、誰も金なんか出さないって思ってたの。それで、20万円程かかるから、湯沢で1人1万ずつ20人から集めたらできるでしょって話したら、80%の寄付がきた。あらかた3年分きた。ふるさとっていうものは離れているけれど、やっぱり想いがあるんだよ。それを改めて実感したね。そういう風なかたちで、自分たちの気持ちを伝えれば、七夕絵どうろうなんてのは枯れることもない、何倍のスケールでできる。だけど、みんな失敗したらどうしようと思つたりね。僕も最悪全額でも出すっていうつもりで声かけた。1人も賛同者がいなければ…、という話が自分の心の中ではあった。でも一緒にいる人間は「大丈夫だ、万が一のときは俺たちがいるでしょ、だからやろう」って話をして、本当にね、誰もそんなお金が集まるなんて思つてなかった。それで通帳開けてみてびっくりで、「なんだこりや！」って。誰一人として、予想してたものを遥かに超えた。すごい力だったんだよね。

Q6. 最後に、あなたにとって湯沢七夕絵どうろうまつりとは？

自分にとっても湯沢市にとってもこれ以上ない観光資源かもしれない。これはやっぱり、湯沢市にとっては生命線なんじゃないかなって。観光事業にとっては生命線のような気がする。

サンロード商店街 湯沢ストリート村：藤田一平さん

Q1. これまで毎年開催されてきたまつりの中止を受け、どのように感じましたか？改めて感じたことやまつりに対する考え方にはどのように変化がありましたか？

全部中止になって、**行事がないという寂しさ**はシンプルにあります。それに、自分は祭りの際に店の前で食べ物や飲み物を出していたので、お祭りがあると売り上げが伸びるということもあり、**先のことと現実的なことでダメージ**を食らっています。

Q2. 今年度は有志によって、サンロード商店街や柳町商店街でイベントが行われています。藤田さんは、なぜ「湯沢七夕絵どうろうストリート」を開催しようと思ったのですか？また、こうしたイベントが開催されている今の心境を教えてください。

分かりやすいとこでは密を避けられるということで、**絵どうろうを飾ることはコロナと関係なくできる**から、展示だけをしようというのが大枠のところです。イベントは、上手い具合に密にならずに、人が来すぎず来なさ過ぎずという感じなので、**丁度良いというのが手ごたえあるな、やってよかったです**って思っています。

Q3. 私たちがこれまで行ってきた来場者アンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

大きなレベルでは特に不安はないけど、若い人不足で。**自分が中心に入れるなら、自分が引き継いで、皆さんの世代の人たちにクッションとなって伝えられればいい**、そういう位置になりたいなと、だけどお祭りがなくなるという不安はないですね。

Q4. 絵どうろまつりに関わっていて、どんな時にやりがいや喜びを感じますか？

人口も少なく、小さい町なので、**祭りを一丸となってやること**、そして**来場した方からシンプルに感謝の気持ちを伝えてもらう時にやってよかったです**と感じるし、そういうものは大きな町では得られない体験だと思います。自分が子供のころは祭りの的屋の型抜きなども楽しかったけど、まつりを発信する側になると視点は異なる。発信する側でいたいし、祭りの魅力を伝えていきたいと思います。

Q5. 今後の絵どうろうまつりを、商店街としてはどのように盛り上げていきたいですか？

今年のようにやるか、同じだとつまらないから何かスパイスを加えながらやるのかもしれないし…、その時にならないと分からぬいけれど、マイナスなことは思っていません。そなったらまたやろうぜ！という気持ちでいます。

Q6. 最後に、あなたにとって湯沢七夕絵どうろうまつりとは？

自分が小さい頃から来ている、夏の風物詩です。

☆例年の絵どうろうまつり開催日と同様の8月5日～7日、加えて8月13日～15日の2回に渡って「湯沢七夕絵どうろうストリート」が開催されました！

8月7日（19時～20時）には、商店街の様子をYouTubeで生配信も！！！



湯沢ストリート村 Facebook (7月28日投稿分) より

サンロード商店街 今野文具：今野さん

Q1. これまで毎年開催されてきたまつりの中止を受け、どのように感じましたか？

改めて感じたことやまつりに対する考え方にはどのように変化がありましたか？

伝統行事なので非常に残念という言葉しか見つからないんだけど、でもやっぱり状況が状況で。どっちをとるかっていうわけじゃないけど、それもしようがないよなっていう一言じゃないかなって思うよね。人を集めることになっちゃうわけだから、その中で万が一ってことを考えると、人の命に関わるわけだから、そこは変えられないよね…。

Q2. 今年度は有志によって、サンロード商店街や柳町商店街でイベントが行われています。こうしたイベントが開催されている今の心境を教えてください。

これもまあ良い雰囲気となって、本来の七夕の良さも出ている気がして…。賑々しいお祭りもありなんだろうけど、湯沢のお祭りって静と動とあれば、静のお祭りなのね。それを見た時に、人が集まるからお祭りが成り立つっていうのもあるかもしれないけど、**これはこれで七夕の良さがすごく引き立ったというか、良さが出てきたような気がします。**イベントをやることによって、もしすごい人が来たらどうしようっていうジレンマもあるのよね。そこら辺が矛盾しているようなところもあるし…、変な感じかなっていう（笑）

Q3. 私たちがこれまで行ってきたアンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、今後まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承について、不安はありますか？

かつての賑々しさをずっと継承していくかっていうのは難しいんだけど、その時代時代に合った形で。昔通りのっていうことは難しくなっていくかんじはするし、ただそれだからってやらねってわけにも…。やっぱ縮小しながらでもやっていかなければっていう。やらねばいけねっていうのもあれだけ…（笑）

あと、我々が子供の頃のお祭りってすごく楽しみで、七夕とか犬っこまつりとか大名行列とか、「お祭りってすごく楽しい！湯沢のお祭りだ！」ってなっていて、親からもそういう風に言われてきてたんだけど、今それが薄れてきてるって感じは何となくするのね。「犬っこまつりってなんよ？七夕ってなんよ？」っていうのが、なかなか伝わってきてないような気が。何だろう、やっぱり楽しみが色々出てきちゃってるっていうのはあると思うんだ。我々の子どもの頃の楽しみって、ただ普通に外で遊んで、みたいな。そういうイベントっていうのがすごく楽しみの一つで、待ち焦がれるくらいだったんだけど、今は色んな楽しみがあるじゃない？イベントしなくても、行かなくても、みたいな。七夕って人は集まるんだけど、実際に絵どうろう見たり、吹き流しを見たりっていう、ことより、ただ人が集まる所に人が集まるみたいな…。イベント化されてるっていうか、そういう風になってきてるような

感じがして。だから、我々が下の人たちに、親たちにずっと言われてきたようなことを言って、その人たちがまた下に…っていう風に、皆がやらなきゃだめじゃないかなって思う。中心商店街の人だけじゃなくて、住宅地に住んでる人たちとか、皆が「湯沢のお祭りってこういうもんだよ！」っていうのを、我々もそうなんだけど、もう一回見直すっていうかね。

大行列然りなんだけど、やる人だけじゃなくて見る人も少なくなってる気がするのよ。前は「お祭りだー！」って言正在いろんな子供たちが出てきてっていうのがあったんだけど、人って飽きちゃうっていうかな、「いつもおんじだよなあ～」って感じの捉え方をしてる気がするものね。だから段々悪い循環になってしまふもんね。やってる人たちは、一生懸命色々な方策を考えながらやろうしてるんだけど、なかなかそれが上手くいかないっていうのもあって、今度は見る側も、「大したことねえよなー」って始まっちゃうわけよね。湯沢のおまつりってやってる側が楽しむようなお祭りじゃなくて、静かなお祭りなのよ、静と動とあればこっちは静のおまつりで。

—みんなの意識を変えていく…みたいな？

まあ皆の意識って言ったら変な話なんだけどさ、やっぱり「湯沢のお祭りってなんよ？」っていうのを皆が考えなきゃいけないんじゃないかなと思う。俺、他の人と考えずれてるかもしれないんだけど、お祭りって、どこが会場とかそういうことでなくて、皆がやるべきじゃないかなって。下世話な話だけど、湯沢のお祭りってお金がかかるのよ。お祭りって皆そうだと思うんだけど、湯沢のお祭りって七夕然り全部個人でやってたのよ。良い時は競い合ってたのよね、隣近所で。たぶん滑川さんも言ってたと思うんだけど、「今野の家で竹なんぼのやつ買ったのよ？」「1万なんぼのやつ。」「へば俺ら2万で買ってこい！」とか（笑）絵どうろうとかも直前まで公表しないで、「今野の家でどんたの出すのよ？おらえのほ良いの出す！」（「今野の家はどういう絵どうろうを出すのよ？自分の家の方が良いものを出すぞ！」）って。そうするとやっぱ盛り上がるのよ。だけどやっぱり個人プレーのお祭りだから、お金がかかるっていうのもあって。七夕に関しては段々ね…。絵どうろうだって大きいの出すって言ったら、まあまあかかるわけだよ。競える時代だったらよかったですけど、今こういうなかなか厳しい世並になってきてしまっているっていうのもあるし…。

Q4. 絵どうろうまつりに関わっていて、どんな時にやりがいや喜びを感じますか？

それがね、湯沢のお祭りってなんかこう…。神輿とか動のお祭りってやり終えた後に、達成感ってあるような感じするんだけど、これは飾ったり（絵どうろうを）下ろしたりで、達成感って言うのかなあ…。昔はね、うちの親父たちがやってた頃だと、竹を下ろすにしても、隣近所でやらないと上げ下げできないくらい大きかったのよね、ちゃんと釘打ってみたいな。で、それを片づけたりなんかすると、12時くらいになってたりね。大がかりっていうかなあ、それもまた良い感じで。七夕の良いところっていうかな。なんか知らないけど、その頃ってスイカ食ったりビール飲んだり、家の中で打ち上げみたいなのをしてる時があって、それがまあ達成感だったんだろうけど。

今は何となく簡略化されてて、竹も上げやすいような仕組み作ったりしてて、商店街皆で片付けとかもするんだけど、その後の達成感っていうのかなあ、年齢とともに疲労感があつて（笑）「終わったあ～疲れたあ～」っていう（笑）絵どうろう描いてる人たちはもしかしたら、完成したと同時に達成感ってあるのかなあ。うちは今レンタルしかできなくなっちゃったんだけど、その描き手の人が来てくれて、「ありがとう～また来年もうちの飾ってほしいな～」とか言ってくれると、それは嬉しいな～って思う。

Q5. 今後の絵どうろうまつりを、商店街としてはどのように盛り上げていきたいですか？

前はね、ここずっと露天商を並べてたのよ。それをいいって言う人もいたのよね、すごい賑やかで。ただ、それをやることによって、竹だったり絵どうろうがあんまり浮き立たなくて…。昔から色んな問題があったのよ。だけど賑々しさを考えると、露店があったほうがいいんじゃないかなってずっときてたんだけど。一昨年辺りかな、露店を無しにして絵どうろうをやったら、やっぱり七夕らしくなって。「これだよなー！」っていうのが復活したような気がして、こういうのが続けばいいなって。商売人としては、どっちかと言ったら、露店に来てもらったほうが楽なのよね。他に絵どうろうの上げ下げもやんなくていいし、やらなきゃやんないでそんなの見えないわけよ。人が集まるから商売にもメリットがあるのよね。そういう面では、商売人としてはね。だけど七夕って考えたときに、ここでねくて、別の場所でも露店の人がたは商売できない？って感じはあるよね。全然湯沢に来たことない人が駅から電車で降りてきて、「七夕の会場ってどこよ？」ってなって、いきなり露店がバーッとなったときに、「え、何？」って人もいたのよね。「いきなり露店がよ」って。露店もお祭りの一部っていうか、その人がたが盛り上げてくれるときもあるんだけどさ。そんな感じかなあ、七夕って。

Q6. 最後に、あなたにとって湯沢七夕絵どうろうまつりとは？

子どもの頃から一番楽しみのお祭りだったね。昔は2日間だったのよ、お祭りって。それが終わって、竹を外すときって、子供ながら見てるときに、「ああ、夏が終わった」って思って。すごいね、毎年思うことが、「ああ、夏終わっちゃったかな」って寂しい感じだよね。今もそんな感じはあるよね。

湯沢市柳町商店街 協同組合 理事長：飯塚哲夫さん

Q1. これまで毎年開催されてきたまつりの中止を受け、どのように感じましたか？改めて感じたことやまつりに対する考え方にはどのように変化がありましたか？

やはり全体的には中止になって残念だなあと思っています。みんながそういう（寂しい）気持ちはあるし、町の中が冷え切っているわけだ。だからあちこちで大曲の花火にしても、ここら辺も雄勝町の花火を毎年やってるのよ。それも縮小して、自分たちだけでやるらしい。あちこちでみんな今そういう動きだよな。どこの街でも。

Q2. 今年度は有志によって、サンロード商店街や柳町商店街でイベントが行われています。例年と異なる規模とはいえ、絵どうろうまつりが開催されている今の心境を教えてください。

大変喜ばしいことだと思っています。これをやるっていうことが、まあね、こういうのしかできないっていうのが…。まず若い人たち（商工会青年部）がこうやってやってくれてるということが、非常にありがたいと思っています。

心境は、晴れてお客様が来てくれればいいな、見に来なければいいな、というだけなんだけども。今日が本番なんだ、実は（取材時 8月 7日）。テント張っている空き地で、稻庭うどんとか、なんかこう来るらしい。この人たち（商工会青年部）が計画してやって。15時頃から夜にかけて。せっかくな、みんなそうやって頑張ってるのに晴れねばな～と思ったったけどね。午後から天気は良さそうなので、みんなが出でくればな～と思ってる。

Q3. 私たちがこれまで行ってきた来場者アンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

えーっとね、そういう意味ではありません！なぜかっていうと、まず（絵どうろうを）描いてる方が、今現在大分少ないんですよ。描き手が少ない。このお祭りは個人がお金を出してやっているお祭りなんですよね。市から援助とか、一円もありません。だから大変なんだ、正直言うと。絵どうろうは大きいものになると結構な金額になる。

一描き手の方が少なくなっている、とのことですが、それでも祭りの衰退に対して不安は無いのですか？

描き手っていっても、大きなものに描ける人と、小さいやつにかける人と、やっぱり違うんですよね。そのおっくく描ける人が少ないとという話よな。

—やっぱりベテランになっていかないと大きいものを描くのは難しい？

昔は全部個人で、自分の家で描いていたもんなんですよ。上手い下手関係なくて。それが段々、悪い言い方すれば観光になったもんだから、上手であって、見栄えが良くて、大きくてってやつになってきたわけですよ。そうすると段々人に頼まないと描けなくなっちゃつた。すると描き手もプロになると生活が懸かってますから、お金が高いんです。本当に、正直言って高いんです。だからしょうがないですね。ただやっぱり実際には、描く人も足りない。金がかかるから（絵どうろうを）出す人も少なくなってきたんだけども、描く人も足りない。だからそのところで、うーん…、**伝統と文化が衰退っていう話になってくると難しい問題なのかもしれないな。**

—昔と今とで絵どうろうまつりに違いはありますか？

賑わいは違うかもしれないな。ここのお祭りは静のお祭りなもんだから、毎年やってると、何だろう…、飽きられる？（笑）「また同じか！」というような、観光客さんにしてみればね。それで今観光協会で色んなことをやっているわけですよ。だから、昔は黙ってても人が来た時代、でも今はそういう時代じゃないんで、その違いですね。

Q4. 絵どうろうまつりに関わっていて、どんな時にやりがいや喜びを感じますか？

個人的な話だけど、七タっていうよりも湯沢のお祭りは自己満足しかねえなって思って、自分ではね。だから今色んな事言われたのは、どこの村にもあるような村祭りっていうのが、日本の普通のお祭りなんですよね。ところが湯沢のこのお祭りは、歴史的に書いたものによると、「お姫様を慰めるためにやった」のがお祭りだって。だからちょっと意味合いが違うわけですよね、他のお祭りとは。大っこまつりもそうですね、簡単に言えば。盗賊が来た時に退治した、といいうわれがあって。だから**部落のお祭りとか町内のお祭りとかとは違う**んですよ。だからみんなが関わっていないんです、逆に。

ただやっぱり実際は、ここにいるもんだから、絵どうろうを出さないといけないという（笑）プレッシャーじゃないんだけど、他からみた場合はそういう風に見えるんでないかね。

—最近、商店街じゃないところの協賛の絵どうろうとかも出るようになつたじゃないですか。ああいうのってどう思われますか？

この柳町も大町も、自分の家で（絵どうろうを）出している町内で何軒あるかっていうと、たぶん柳町で5,6軒ですよ。自分で描いて出しているの。だからもう、当然出したことのない方もいらっしゃるし、あとは講習会みたいなものがあって、それをお借りして出していると。それでもやはり、全部足りないので色ん企業さんたちがやってもらったものを集めてお願いして飾っていると。

隣の町内には世界一の絵どうろうにしたいっていう野望を持っている方のいるので、まず本当にそうなればいいなと思っている。ただ受け入れ態勢がね、ちゃんとできていないと。やっぱりそのためには描き手の方も、我々も一緒になって色んなことをやらないと。

Q5. 今後の絵どうろうまつりを、商店街としてはどのように盛り上げていきたいですか？

困ってるのそこなんですよ。商店街はいいんだけども、絵どうろうを出すのが個人なもんだから、だから個人が良いと出せるんですよ…。そのためには景気が良くなつてもらわないと、困るんですよ、本当に困る。

一絵どうろうを出してお祭りを盛り上げていくのと、商店街の活性化は関係してくるんですね。

そこが繋がってくれればなあと思います。けど中々、お祭りと商店街の活性化はまあどうかなって。人が集まる分には、良いんだけど、物が売れるかっていうとまた別の話なんでね…。来年も今まで通りできるようになれば、まずね、いいなあと思っています。まあそのためには早くコロナが終わらないと！

Q6. 最後に、あなたにとって湯沢七夕絵どうろうまつりとは？

我々は特にこの場所にいる者だから、無くなつてしまつたら寂しい存在だね。だからどうしたら無くならないようになるのか、ずっと続けられるようにな、やっぱり皆で考えていくしかない。盆踊りでも何でも、小さい頃からやつたり学校に教えたりしているわけですよ。だからそういう風にして文化を継承したいなと思っています。



平和電業社さん、店前の様子
絵どうろうが飾られていました！

湯沢市柳町商店街 井川春吉商店：井川さん

Q1. これまで毎年開催されてきたまつりの中止を受け、どのように感じましたか？改めて感じたことやまつりに対する考え方にはどのように変化がありましたか？

とても残念ですよね。私は静岡から嫁いできた時に、初めて七夕を見て、そこから絵を描かせてもらって、自分の家の分の絵どうろうを自分で描こうと始めて…、40年ほど描いてきたんですよ。中止になって何かぽかんと空いてしまった感じがしています。

特にこの商店街は七夕が一番盛り上がるまつりなので、だからそれがなくなるってことはとっても寂しいことですよね。

Q2. 今年度は有志によって、サンロード商店街や柳町商店街でイベントが行われています。例年と異なる規模とはいえ、絵どうろうまつりが開催されている今の心境を教えてください。

少しでもね、おまつりのことを忘れないでもらうためには、小さいながらも開催できるのはよかったですって思いますね。コロナの心配もありますけど、まず、見に来てくださるお客様がいて、賑わえばいいなと思っています。本当のお祭りなら道いっぱいに人がいて、という感じなんだけれど…、何だか少し寂しい気持ちもありますね。

Q3. 私たちがこれまで行ってきた来場者アンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

やっぱり絵師の方が本当に高齢になってきたので、これから先どのくらい絵を描けるのか。講習会をやってもらって、生徒の方にも頑張ってもらうことで若い人の作品が多く出るようになってきていますが、先に立つ先生方も頑張って下さっているけど、ご高齢になつた方もいらっしゃるので、そこに不安はありますよね。でも講習会で生徒の皆さんのが頑張つて描いてくださっていますから。

Q4. 井川さんは、絵師としてもお祭りに関わっているとのことですが、若手絵師の印象はいかがですか？

今の人たちは本当に上手いと思いますね。私は絵が上手くて描き始めたのではないので、模写しかできません。だから今の生徒さんは本当に上手だなって。講習会をやっていても、本当に勉強させてもらっていますね。そのくらい上手だから、将来的にはそういう人たちが頑張つてくださると思っています。

Q5. 絵どうろうまつりに関わっていて、どんな時にやりがいや喜びを感じますか？

私は本当に自分のお店のものだけ描いているので、そういう（自分の家の絵どうろうを描く）入ってあまりいないんですよね。だから自分で描いた絵どうろうを飾ることが出来ることに、すごく喜びを感じますね。柳町の中では、少なくとも私ともう一軒くらいあるのかな。今は、自分の家の絵どうろうを描くのは中々珍しいことです。

来年お祭りが開催されたら、絵を描くと思いますが、今年は休もうと思います。それでも講習会の生徒の方の絵を見ると、やっぱり自分も描きたいな、描かなくちゃなという思いにはなりますね。何年やってもなかなか上手にはならないというのがあって、難しいですね。ぜひ来年お時間取れたらいらしてください。じゃあ私も頑張って描いておかないと！

Q6. 今後の絵どうろうまつりを、商店街としてはどのように盛り上げていきたいですか？

一つでも多く絵どうろうが飾られて、お客様も来てくださって、賑わってくれればいいなと思います。

Q7. 最後に、あなたにとって湯沢七夕絵どうろうまつりとは？

今まで頑張って描いてきた自分の作品を見てもらえる、そして色々な人と出会う良い機会になっています。毎年のように横浜から来てくださる方がいて、いつも寄ってくださって。普段は人通りが少ない商店街に、お客様が一番集まる時なので、楽しみですね。



井川春吉商店さん、店前の様子

自分の家で描かれた絵どうろうが飾られていました！

湯沢市柳町商店街 湯沢商工会議所青年部：若狭誠一郎さん

Q1. これまで毎年開催されてきたまつりの中止を受け、どのように感じましたか？改めて感じたことやまつりに対する考え方にはどのように変化がありましたか？

コロナの影響により、**当たり前にできていたおまつりができなくなつたのが、寂しいな**と思っています。

でも逆に考えた場合、**対策をしっかりとればイベントは開催できるのかな**、と。じゃあどのような対策をして、このイベントができるのかを、商工会青年部の方で考えました。定例会の時に、“湯沢モデル”という飲食店が掲げるコロナ対策モデルを作りました。それに伴い、屋外型イベントの対策を考えましょう！ということで、8つの項目を作つて対策をしています。それで開催できるように頑張りました。やっぱり難しいのが、出店者がなかなか…。開催日時が毎年8月5～7日なのですが、その3日間やるのもリスクがありますし、出店者側もお店があるのでなかなか厳しいというのがあって。それでも、二を開けてみたらこうして皆さんに飾ってもらっています。小学生に絵どうろうを描いてもらって協力していただいたり、秋田市内からも飲食店の方が出していただいたり、湯沢の養助さん（佐藤養助商店）も来ていただいて、なんとか開催にこぎつけることができました。こうして見てみると、自分たちの団体だけじゃない人たちも、絵どうろうをサンロード商店街に飾つていて、各店で飾ってくれることが一番良いことなのかなと思っています。コロナで結構自粛ムードだったので、それを払拭できるように、このイベントが始まりました。

Q2. 私たちがこれまで行つてきた来場者アンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

無いって言えば嘘になるのかもしれないんですけど…。**10年後20年後も続けばいいな**って思つていて、それを続けるためには、**今の自分たちが頑張つていかないと続かない**と思っているので。こういう世の中ですけど、まず今回はコロナの中でもこのお祭りができるようなイベントができれば、来年からも続けていけるのかなって考えています。

今は湯沢市の方が絵どうろうを描いているんですけど、美術に関係している人が、これを作つてもいいのかなと思っています。あと、今回七夕の竹はないんですけど、「七夕絵どうろうまつり」なので、竹を使ってもっと色んなことができたらなと考えてはいます。やっぱり、**描く人・飾る人・見る人がいないと、このお祭りは成立しない**ので。見る人は頑張れば沢山呼べるんですけど、**描く人や飾る人をもうちょっと増やしていくかないといけないかな**、と考えています。美人画が一番良いと思うんですけど、それだけじゃない絵どうろうがあつても良いのかな、と思つたりもします。あと今回のイベントでは、「塗り絵体験」という簡単な絵どうろうで小さい子向けに塗り絵をしてもらって、箱に貼つてもらうんですけど、それでも思い出作りになればなと思って。題材として「アマビエ」をキャラクターっぽ

くしたのと、疫病退散で鹿島様をキャラクターにしたものを選んで塗ってもらう感じで、子どもたちも楽しめるように考えています。

Q3. 絵どうろうまつりに関わっていて、どんな時にやりがいや喜びを感じますか？

いつもはこのイベント場所を使っても入りきらないほど、人でいっぱいになるんですよ。それを見るだけでも達成感はあると思います。今の時代だと Facebook や Instagram でハッシュタグを検索すると色々な人が見てくれていて。それに対して「いいね」が送れるということは、実証できる結果が見えるので、それがやっぱり今の時代だし一番いいのかな、と思います。あとリピーターの人がいたりするので、そういう人がいるっていうのが分かると、やって良かったな、という気持ちにはなりますね。

それこそ1～2か月前まで「今年はみんなやんねんだべな～」って言っていたんですが、逆に言えば、いつもは楽しみにしてたんだよなって。やっぱり祭り期間は小さい頃に遊んでたイメージが強いので、昔はもっと絵どうろうがあって、もっと七夕（短冊）があって…、そういうイメージにしたいなっていうのもありますね。

Q4. 今後の絵どうろうまつりを、湯沢商工会議所青年部としてはどのように盛り上げていきたいですか？

伝統は守りつつも、新しいことに挑戦したい。昔は別の形の絵どうろうを家々で飾っていて、途中から美人画になったんですよ。形を変えてでもいいですし、こうやって美人画だけど、さっき言った通り、ポップアートでも何でもいいんですけど、そういう方々に描いてもらって。やっぱりこのサイズでものを描くって中々無いですよ。これくらい大きな風景画はいっぱいあるんですけど、絵どうろうって人の絵じゃないですか。そう考えると絵どうろは特別なものなんですね。

あとはもっと短冊を飾りたいですかね。結構お金も手間もかかるんですけど、短冊が増えただけで、また一つ雰囲気が変わってくると思います。

Q5. 最後に、あなたにとって湯沢七夕絵どうろうまつりとは？

日常ですかね。当たり前にあるものといいますか。夏祭りっていえば何？ってみんなに聞くと、例えば「神輿を担ぐ」とか「花火が上がる」とかなんんですけど、このまつりは“静のまつり”なので、ここは静かに見て回るまつりだから、そこがいいよねって話していますね。



湯沢商工会議所向かいで開催されたイベント会場の様子（準備時）

湯沢市中央通り商店街 振興組合 理事長：高久さん

Q1. これまで毎年開催されてきたまつりの中止を受け、どのように感じましたか？

改めて感じたことやまつりに対する考え方には変化はありましたか？

まつりのカレンダーが抜けてしまったような寂しさがありますね。七夕の笹やまつりの音楽など、当たり前が見えなくなつたことに、一番寂しさを感じます。これをバネに、歴史を深く知って、もっと喜んでもらうための、より充実した企画を見直していきたいです。

Q2. 今年度は有志によって、サンロード商店街や柳町商店街でイベントが行われています。例年と異なる規模とはいえ、絵どうろうまつりが開催されている今の心境を教えてください。

駅前に絵どうろうが飾ってあって、そして小学校が短冊を飾ってあって。本来はもっとやるんだろうけど、なんかこうちょっとだけでも、お祭りを作ってくれたんだなあって、ホッとするような感じがします。

Q3. 私たちがこれまで行ってきた来場者アンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

やっぱりいろんな絵どうろうを描くにあたって、お金がかかるわけですよね。それで、うちの方では20何年間、企業回りなんかも毎年やっていました。そして（企業に対して）報告ということで、絵どうろうの写真を持って「こういう風に今年は掲載させてもらいました！」って。毎年やってきたんですけども、ここ3年前くらいからですね、実はそういうことでは持続できないなっていう風に考えて。ここの（絵どうろうのワイヤーを貼る）機材、一切合切を七夕絵どうろうの実行委員会に寄付したんですよ。そして実行委員会、また物産協会のような色々な湯沢市の人たちの協力をもって、そして市からはスポンサーを見つけていただいている。やっぱり継続ってなると、昔は町の人がやるっていうみたいな固定概念があって。そうじゃなくて、**皆で参加するっていう形にしないと、継続できない**ので、そこを少しずつ、また今までお祭りに携わってこなかった方たちが、参加てきて。だから良い方向にあるんじゃないかな。人口が少なくなることは分かってますけれど、絵どうろうに関しては、もしかしたら全国から描き手が集まるかもしれない。美術に関係する人たちはたくさんいるしね。だから、もっと外へ向けて誇つていい祭りに変えていければ、湯沢の七夕っていうのが、すごくメリハリも出ますし、みんなが楽しんでもらえるような、七夕になると思いますね。そこはすごく大事だと思います。

子どもたちが描く絵どうろうがありますが、最近は美人画だけじゃなくて、自由なものを描く子たちも増えてきています。友達同士、二人で描いたりする絵もあったりして、そういう意味ではバラエティーになってきているので、**やっぱり小さい頃に、絵どうろうを描いたっていう経験っていうのが大きい**と思いますね。描くことで初めて分かる難しさもありますし。昔は1回塗るとその上に塗れなかつたようなものだったんですけど、今はもう描く人

たちも、染料も、どんどん進化しています。**湯沢の絵どうろうってのはすごく進化している**んですよ。描く人たちのレベルも上がっています。だからそういうのを見れる人が増えてくると、描き手の人と、今年はどうだったとか、ああだったとかっていう話をして、今度描いてる人たちがお客様にね、絵どうろうの話をしてくれるような余裕があれば良いですね。みんな開催までに、本当にげっそり痩せていますので(笑)。

—それだけお祭りに力を入れているのですね。

そうですね。そしてまた 1 年かけて、まつりの開催を目指していますのでね。そういう風な楽しみっていうのは色々あって。そういうのを覚えてくると、色んな横の繋がりができる、新しいものを作っていくるんじやないかなと思いますね。

でもやっぱりね、平塚の七夕（湘南ひらつか七夕まつり）とか、向こうの人が来て、湯沢の七夕の絵どうろうを見て、びっくりしたんですよ。なんでびっくりしたのかな？と思ったら、「え？！これ手描きですか？！」って。向こうは印刷なんですよね。だからそういうことを考えると、手が込んだお祭りですし、すごく特色のある祭りじゃないかなと思って。やっぱりその価値観っていうのを、もっと知ってもらえば色んな人が関わるおまつりになると思いますね。

Q4. 絵どうろうまつりに関わっていて、どんな時にやりがいや喜びを感じますか？

やっぱりお客様が多く来てくれて、喜んでもらえればね。そして女性の方も浴衣着たりして、こうしたロケーションにマッチした格好で歩きたいっていうことが沢山あると思うので、**実際に来て色々と驚いてもらったり、「また来たよ！」といった声を聞いたりすると、非常に嬉しいな**と思いますよね。最近は結構色々なところから夫婦で来られたり、リタイアメントした方たちが来られたりして。あと SNS を見て「こういうふうなお祭りをやってるんだ！」っていうね、たまにそういった方たちとお話する時があります。そういう時に、やっぱりわざわざ来てくれたのは嬉しいなって思いますね。

Q5. 今後の絵どうろまつりを、商店街としてはどのように盛り上げていきたいですか？

個々の商店街としては、とにかく、**より楽しんでもらえるような環境づくりをしたい**です。椅子の整備とかですね、またちょっとイベントをやってる時に、「あの照明が暗い！」とかね。色々欲を言うとあるんですけど、そういうところの細やかな補佐ができるればなあという風には思っています。

Q6. 最後に、あなたにとって湯沢七夕絵どうろまつりとは？

湯沢で一番のお祭りですね。奥行きのある、歴史のある、特色のあるお祭りなので…。ちょっと格調があって品格が良い…だけど楽しめる！っていうね(笑)そういうお祭りになればいいなって思います。

湯沢市中央通り商店街 山田一平酒店：山田さん

Q1. これまで毎年開催されてきたまつりの中止を受け、どのように感じましたか？改めて感じたことやまつりに対する考え方にはどのように変化がありましたか？

ここで生まれ育っているので、無いのは不思議な感じっていうか、初めてなのでね。7月の後半から準備しているのが普通の流れだったので、なんか変な感じですよね、無いっていうのは。

Q2. 今年度は有志によって、サンロード商店街や柳町商店街でイベントが行われています。例年と異なる規模とはいえ、絵どうろうまつりが開催されている今の心境を教えてください。

この商店街では何もやっていないんですけど、やっぱりやってもらってるここと関しては嬉しいですよね。

—中央通り商店街で何かやろう！とはならなかったんですか？
人がいないからね（笑）

Q3. 私たちがこれまで開催してきた来場者アンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

それは毎年感じますよね。今、七夕と大行列と、まあ湯沢市三大祭りってあるじゃないですか。俺は大学卒業して帰ってきてから、20代からやってる仕事がほとんど一緒なんですよ。ということは若い人がいないってことですよね。特に商店街はね、まつりに携わってる人が一緒なんですね。

Q4. 絵どうろうまつりに関わっていて、どんな時にやりがいや喜びを感じますか？

喜びねえ、何だろうなあ。喜びっていうか、その時になると街もそうですけど、それこそ七夕の飾り付けっていうと家族みんなでやるし、今年はそういうのがないじゃないですか。個人商店、家族みんなで短冊の準備をすることとか、小っちゃい頃は、そういうのが楽しかったのかもしれない。大きくなってからも、子どもたちもなんだかんだ言ってみんな一緒にやるしね。

Q5. 今後の絵どうろうまつりを、商店街としてはどのように盛り上げていきたいですか？

まずは通常通りやることだよね。今は来年の状態が分からないし、あまり多くは望まないけど、やっぱり通常通り開催できるようになるのがベストかな。それからじゃないかな、どうやってもっとお客様を呼ぶか、っていうのは。

Q6. 最後に、あなたにとって湯沢七夕絵どうろうまつりとは？

あって当たり前で、ここに生まれたからにはやるのが当たり前で、やっぱりなくちゃならないものなんじゃないかな。

湯沢市中央通り商店街 小川屋酒店：小川さん

Q1. これまで毎年開催されてきたまつりの中止を受け、どのように感じましたか？

改めて感じたことやまつりに対する考え方にはどうなりましたか？

単純に、この情勢なのでどうしようもないんですけど、やっぱり素直な意見としては悲しいというか。湯沢市の三大祭りの中でも七夕っていうと、老若男女誰でも「ああ七夕くるなあ」と湯沢市民全員が思っているはずなので、それがないってなると悲しいです。皆さん何かしらできないか？っていうような動きで、また湯沢市民の結束が上がったんじゃないかな、という風には思いますね。今年できないと、皆さん来年はやりたいことが増えたと思うので、早く良くなってほしいっすね！

Q2. 今年度は有志によって、サンロード商店街や柳町商店街でイベントが行われています。例年と異なる規模とはいえ、絵どうろうまつりが開催されている今の心境を教えてください。

中にはどうしても、中止になったのでやらないほうがいいんじゃないかな、みたいな人もいるんですけど、何をやるにしても賛否両論というか…、特に前例がないことなので…。各通りの皆さんが一生懸命考えたことをやっているし、色んな人に会う機会もあるので、「(絵どうろうを)飾っていますよ！」みたいな声掛けはしていきたいと思っていますね。

Q3. 私たちがこれまで行ってきたアンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、今後まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

湯沢市は特に若い人がいなくなっているんですけども、蓋を開けてみると意外と若い人がいるなと思っていて。昔ほど、湯沢から皆出て行くっていうよりは、**地元のため**に頑張りたい！っていう若い人も増えているような気がするので、そういう人たちと関係をとりつつ、やっていけば、継承しつつ進化もできるんじゃないかなと思います。

Q4. 絵どうろうまつりに関わっていて、どんな時にやりがいや喜びを感じますか？

各通りごとの想いっていうのは必ずあるので、うちの通りだとビアガーデン的な感じでゆっくりお酒を飲めるっていうのが毎年の売りで。逆に他の通りだとイベントをやったりっていうのがあるんですけど、地区ごとの良さがあるので…。まあせっかくこうやって来てもらったので、来年は恥じないこと出来ればなと思いますね。

Q5. 今後の絵どうろうまつりを、商店街としてはどのように盛り上げていきたいですか？

規模大きくっていうと、凄く漠然とはしますけど、うちの通りだと、**絵どうろうの基数を増やす**っていうのはもう確定してた話なので。うちの長年やられている方々だと、「うちの通りの絵どうろうが一番いい」って言っているので、**それは俺も言ってかなきゃいけないのかな**とは！「うちの通り一番おっきっすよ！」って。湯沢市外から来たお客様、買い物とか来てくれる時に、「何もないっすけど、ここだけは絵どうろう特にきれいですよ」っていうのだけは言つていただきな～と（笑）

Q6. 最後に、あなたにとって湯沢七夕絵どうろうまつりとは？

湯沢市の誇りじゃないですかね。見栄を張るポイントというか、あと郷土色が良く出るので、たぶん外の人を呼ぶのはもちろんんですけど、湯沢市民が一番楽しんでると思う。

湯沢市大町商店街 振興組合 理事長：山内功さん

Q1. これまで毎年開催されてきたまつりの中止を受け、どのように感じましたか？

改めて感じたことやまつりに対する考え方にはどうなりましたか？

多くの人がそうであるように非常に残念で、夏の風物詩というか、**当然あるのが当たり前**っていう風にきてたので、**ぱっかり穴が空いたみたいな**、やっぱりそういうのはありますね。

時代を遡るほど、絵どうろうまつりっていうのは商店街の存在が大きかったんですけど、それが残念ながら、ここに限らずどこも地方は商店街ってのがすごい疲弊していて。それと共に、その辺との関わりっていうのが全然少なくなってきて、結果祭り全体も縮小傾向になっていくみたいなところをやってくと、これは商店街に責任があるわけじゃないんですけど、やっぱりそういうとこに関しては、多くの方々が非常に残念だなど。「かつてはああいうことができたのになあ」みたいな思いがありながら、それでもここ最近は、私から見るとよそ者で若者の方とか、NPO なんてのを作つたりとか。そういうところで色々な新しい何かをやろう！という流れは、むしろ良いことなのかな、と。ただ現実的には、この絵どうろうまつりを、かつてのって言い方じゃないのかもしれないんですけど、まだちょうどその意味では過渡期で。これで結局そういうのもだめなるのか、少しは何らかの形で浮上できるのか、みたいなところで、ここ数年ぐらいが多分一つの分岐点になるのかなあ、と思っています。ただこのコロナだけは誰も想像してなかつたんで…。

Q2. 今年度は有志によって、サンロード商店街や柳町商店街でイベントが行われています。例年と異なる規模とはいえ、絵どうろうまつりが開催されている今の心境を教えてください。

3週間くらい前まで知らなかつたんですけど、私も年齢が年齢なんで、もう2年くらい前に現役から退いたんですけども。ただやっぱりここに限らず、全体がまさに高齢化で、後継者がいないみたいな問題があるんで、そういう中において、例えばサンロード商店街でも、特にあの若い人というか、湯沢ストリート村の藤田君とか、彼らが中心になって、そういうイベントをやるって聞いていましたし。コロナがあって、祭りが無くなつたがゆえに、規模としては小さいかもしれないんですけども、これまでとはちょっと違う切り口の新たなイベントみたいのが生まれてきたっていうのは、逆にコロナを良いきっかけにすることができるのかも！

湯沢ストリート村の人たちっていうのは、本当にここ5年くらいですかね、色々やってきて、まあこういう言い方するとあれですけど、5年くらい前まではどっちかっていうと湯沢の大人たちに眉をひそめられてた人たちなんです。若くて、ファッショントリートの関係もあるんですけど。ストリートファッショントリートというか。昔から活性化のためには「若者・馬鹿者・よそ者」が必要だ！ってずっと言われてるんですよね。やっぱりそういう人が必要なんでしょうね。特に、こういう伝統みたいなのがあるお祭りであればこそ。湯沢の昔の町旧湯沢市、の中でも、この中心部の人たちが、良くも悪くも全部支えてきて、スポンサーでなくてやつ

てきた。その意味では、やっぱりこの人たちは、“自分のお祭り”みたいな、そういう気持ちを持つことは悪いことではないんですけど、どうしても長くなっていくと、その辺の視点が…。もう全部仲間内だけでやってますから。だから、外からの目ってのはすごく大切で。今言ったように、そのストリート村の人たちであるとか、NPO とか、全然違う人たちが入ってきたのはすごく良いことだと思います。小っちゃい事ですけど、今新しいのがぽつぽつと出てきてるわけですよ。これを機にね、絵どうろうまつりそのものも、良い方にね、変えられればいいなあ、なんてことは思っています。実際にこれが来年の絵どうろうまつりなんかにどういう形でフィードバックできるかどうかなんてのは、多分個々はそんなに考えてないだろうと私は思います。高齢化社会において、若い人たちが自分たちで工夫してやってるつてこと自体が良いことじゃないかなって思いました。とりあえず現時点においては良いかんじで進んでいるのかなと。

やっぱり今連携って言葉やたら使いますけども、やたら使われるってことはいかに連携が難しいかっていうことの現れだと思うんですよね。それがまず小さい規模ではあっても、そういうのが出来てきているのは、少しは改善というか、進歩というか、したのかな、と。問題はさっきも言ったような、この後の大きなイベントとか、来年とかに、こっからどうやって繋げられるか、その辺が課題かなと思います。

Q3. 私たちがこれまで行ってきたアンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、今後まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

不安というか…、個人的に描き手の人たちと付き合いがあったので、色々と話をしているんですけど、**伝統を継承していく、続けていくっていうことと、逆に続けてくためには色んなイノベーションとかが絶対必要だから**。それが同じ人たちで長くやっているとなかなか…。理屈としてはわかるんだけど、「俺たちのこの祭りは違うんだよ」みたいな、どうしてもそこから抜けきれないみたいなところがあって。だから今言ったような、“コロナだ、祭りがない、でも新しい人たちが新しいことやる！”っていうのが、次に伝えていくために必要な大きい流れかな、と。少なくとも自分たちが。やっぱり「観光協会やったらいいいじゃないか」っていう話はいっぱいあるんですね。けど、それはちょっと違うんじゃないかなと。だから今は観光協会の方々が、頑張って何とか、黙ってたらすぐ崩れちゃうようなものを維持してくれてる間に、今言った新しい色んなものを何とか吸収してやっていかないと！じゃないとなかなか報われないというか。

昔は決して（絵どうろうが）美人画じゃなかったんです、本当はね。その辺は歴史として知ってるかもしれないんですけど。要するに、この辺の人たちがそんなに絵が上手じゃなくて、この辺の商店師が皆描いていたんですよ。画題なんてのは美人画じゃなくて、もう本当に自由な、色んなものがいっぱいあって、でもそれがだんだん…。その時点ではあまり“観光”って意識はしてなかったんですけど、自然と観光行事化ってきて。そうなってくると、やっぱりお客様が来る。それまでは町の中のお祭りだったものが、お客様が来るってなった

ら、出来ればあんまり下手なやつ（絵どうろう）がないほうがいいじゃないか、みたいになってきて。専門の人たちが段々増えてきて、その人たちが絵どうろう保存会を作つてやつてたんですけど。だから40年くらい前の時点で、このままじゃこのお祭りは廃れるな、とは思っていたんで。今もやつてある絵どうろう講習会、実は提唱者の一人なんですよ。当時一緒に色んなことやってたのが、長年会長やってた石川さんとか、絵どうろう館の高橋さんとかですね。そういう方々と「このままじゃだめだよね」って話を実は40年くらいしていたんですよ。その中の一つの案として、「後継者育成のために講習会やってみようよ」ということで、やつていたんです。でも正直言つて、それがすごい成果が出てるかって言つたら、そうじゃない。まあ当たり前なんですね。“習うより慣れろ”というか、年に1枚描いたんじゃ、上達なんかする訳ないんですよ。他にも色んな所で色んな話があつたんだけど、残念ながら、それが具現化されないという。

だから3、4年前にできたNPOとか、そういうところに期待してますよ。今まで単発で良い話がいっぱい出てきたんですよ。でもどれも皆、話が出ては消え、出ては消え、の繰り返しで。特に昔は、日本の画集の拡大模写でしたから。それまで著作権とかいう考えが何にもなかつたんですよ。一度東京の美術館からクレームが来てから、拡大模写から構図を変えるとかアレンジして、そういうのがちょっと変わってきたんですよ。あれはたぶん20数年前ですね。だから折々にちょっとした変化はあった時代。でも残念ながら、やっぱり一番の問題は、世の中金がすべてじゃないけど、金がほとんどだという現実があるんですよ。そうすると財政的なところがやっぱり…。それをかつては商店街っていうところが支えてたわけですね、スポンサーとして。それがどんどん廃れていって。多分色んな改善策はあるはずなんんですけど、それを一つにまとめて何かをやろう！ってなると、それなりの組織と財政に裏付けられないと、やっぱり難しいかなって。ここ何年かの動き自体は私もなんだかんだで50数年くらいは見続けていますから。もしかしたら逆に、今年コロナってことで中止になったのが、上手く流れを変えるきっかけになってくれればいいなあっていう期待はしています。

Q4. 絵どうろうまつりに関わつていて、どんな時にやりがいや喜びを感じますか？

絵どうろうまつりってことに関しては、昔は町中の商店師たちをはじめとしたチームがちょっとスポンサーになって。あと自分たちで描いたり、ちょっと上手い人に頼んだりして、あの当時はまだ、“自分たちが祭りをつくつてやつた”みたいな達成感を得られた時代。40~50年くらい前じゃないかなと思います。その後は、観光協会さんには申し訳ないですけど、ある意味やっぱり毎年「ああ、またこのシーズンだね、やんなきゃなあ。」みたいな。そんな感じでやつてあるんで。だから今は、当時からすると、すごい観光行事化して。経済環境が良かった時代はわあーっと広がつた、でも経済環境が悪くなるとほとんど縮小する、みたいな。そういう中になつてからはたぶん、自分たちでの達成感とか、自分たちで作り上げるっていう風なものは、絵どうろうまつりに関しては、多くの人は持つてないと思います。だからさつき言つたように今回駅通りで、ストリート村の若い人たちなんか中心にして、

“ないんだったら”ってことで、そういうのをやってくれているのは、“自分たちがやった”みたいなところで。実際どれだけ来場してもらえるかっていうのはさることながら、まずそういう風にして、**大きい絵どうろうまつりができるんだったら、「自分たちでやっぱりやろうよ～」**っていう風にやってくっていう、そういう気持ちでやるってことで、達成感みたいなのはあるんじゃないかな、彼らは。**小さい成功体験の積み重ねっていうのが継続につながると思うんですね。**その意味では、個人的には彼らにずっと期待してて。だからそういう人たちと色んな流行というか、コラボとかしていければ、違うのが出てくるのかな。決まりきったメンバーで、増してや高齢化の年寄りが集まったところで、絶対新しいのは出てこないんで。そしてそういうのってのは、規模が小さくないと自分に達成感っていうのは得られにくい。大きくなるほど皆それぞれ愚問だとか反抗ってのはならざるを得ないんでね。

Q5. 今後の絵どうろうまつりを、商店街としてはどのように盛り上げていきたいですか？

うちに限らず、「皆ほんと良くやってるよね」っていう。もうはっきり言って、ほとんどがその日を暮らすので精一杯っていうのが現状です。そういう中では、かつてのようなスポーツサーチックな（各家で自分の絵どうろうを出す）形ではもう完全に無理なので。今年はまさにコロナで色々無くなって、ここはもう「観光で何とかしなきゃいけない！」ってことで本当はやっているんだけど、それが今年は何もできないみたいな中で。でもやっぱり観光っていうか、定住人口が増えないんだったら交流人口増やすしかないだろっていうか、それから言ったら、“観光”っていうのは絶対に今後も凄く大切なことだと思うんで。その資源として、自然もあるんだろうけど、**湯沢の伝統的なお祭りの中で、今後観光資源としてやっていくには、やっぱり“絵どうろうまつり”だと私は思っているんですよね。**さっき言ったNPOに期待するっていうのは、そういうところですよね。何年か前からプリントの絵どうろうとかもあって、「あんなのは本物じゃない」という声もあるんですけど、いや、本物偽物とかじゃなくて、もし観光ってここでやるなら、当然“観光客がなにを求めてるのか”って視点からやらなきゃいけないわけで。「これまで私たちがこうやってきたからこれをやるんだ」みたいなのは…。色々な視点から物事をやってかないと、やっぱり単なる昔の絵どうろうをもう一度っていうのは絶対無理なので。

私なんて1年だけですけど、15~16年、もっと前かな、この大町商店街で“絵どうろうアートコンテ”なんてのをやったの。それまで絵どうろうってのは美人画で、「こういうサイズで、こうだ！」みたいのがあったんですけど、「いやとにかく1回それ取っ払おうよ」って言って、小さいサイズの枠を作って、画材は自由にして、一応公募したんですよ。んで、あの時はやっぱり、公募したけど1点、2点しかこなかった。まずいなってことで、たまたま知り合いだった当時の湯沢の中学校の美術の先生方に「今年実はこういうこと考えてるから、1学期の授業は絵どうろうのあれ全部やってね」ってお願いして、それでまず基礎票だけ固めようって言って、それでまあ50点くらい。それプラス一般で40数点、全部で97点。県外も一部あって、市外からも結構（作品が）きていたんですよ。普通の人物画から、生物画だったり、本当に色々なをやって、本当に自由でした。あの当時はまだ中堅でした

けど、今は映画賞ももらった根岸監督って知っています？あの映画監督。彼を呼んで審査委員長にしたんですよ。審査委員長ってこの辺の人が勝手にやるよりもってことで来てもらいました。あれ自体は凄く良かったなって、自分でも思うんですけど。残念ながら一商店街では財政的にとても継続できなかったんですね。今だったらあれ、もっとできる。あの当時は今と違ってインターネットも何も無かった時代ですから、いきなり「大きいサイズの絵を描きなさい」なんて無理なんですよ、絶対に。だから普通の画用紙というか、あれくらいのサイズのもので描いてもらって。今だったらデータ化していくらでもできるじゃないですか。あの当時だったら全国の美大でこういうのをやって、優秀作品を大きく描いて、絵どうろうにしましょう！なんて話とかもやってたんですけど、当時はそれをやるにはIT環境が全くなかったんで、もうこれは無理だねって話で終わりました。今だったら、やろうと思えばそんなにコストかけずにできますから。

このままじゃ絵どうろうの描き手もいなくなるし、あまり美人画とかこだわらずに、1回気軽に色んな人が色々なものを描くような機会をつくることが、絶対ここにとっても良いことだよって。

Q6. 最後に、あなたにとって湯沢七夕絵どうろうまつりとは？

いやそんなに仰々しく考えたことは…。やっぱり生まれたときから祭りがありましたし、たまたまというか、私自身は全然絵心も何もないんですけど、絵どうろうを制作している人たちって昔から個人的な付き合いがあったので、その意味では一般的のというか、その方々よりは視点が違うのかな、という感じは自分でもしていますね。

かつては中心商店街のお店がスポンサーとなって、絵どうろう描いてもらっていたけれども、商店街の疲弊と共に、経済的に厳しくなって、どんどん縮小してって、時間の経過で描き手の後継者の問題が出てきて…っていうのを、多くの人は商店街とかそちらの立場で見てたと思います。

正直言って、昨日、一昨日もそんなに人手があったわけじゃないんですけどもね、私も近いんで（有志企画のイベントを）一応見には行ってたんですけどもね。それでもやっぱり少ないというか、割合年寄りだったり、家族連れだったり、という方々ね、「んーなんかやっぱり今の時期この絵どうろう見ないと寂しいよねえ。」みたいな話をしながら歩いてるところを見たりして。お祭りってみんなそうなのかもしれないですけれども、確かに観光行事ってことは経済効果っていう話になるんでしょうけど、やっぱりそれとは違う別の、実に抽象的なそういう感情、心っていうか、そういうものが核にあって、それを上手く利用して経済効果だ、観光だ、っていう話になるんだろうなあ、なんてことを、絵どうろう見ながら言っていたのを聞いて。改めて再認識させられたというか、そんな感じはありますね。**伝統とか守るべきものは守る、でも守って続けていくためには変えるものを変えないと続けられない**っていうかね、その辺の線引きとか見極めっていうのをどこでやるのかなっていう。

湯沢市大町商店街 とみやセトモノ店・カクトとみや：富谷さん

Q1. これまで毎年開催されてきたまつりの中止を受け、どのように感じましたか？改めて感じたことやまつりに対する考え方にはどのように変化がありましたか？

このまま何も無くなってしまう、戻すほどにならないかどうか。1回辞めちゃって「無くてもいいっか」ってなることが1番心配だし、恐れていますね。集客も、外から人の入ってくる行事が七夕（絵どうろうまつり）とうどん（全国まるごとうどんエキスポ）くらいかな、二つもないっていうのはやっぱり困るし。きっかけというか悪い方の意味で、無いなら無くていいか、ってなって。簡素化していいやいいやとなってしまいそうで。これが一番もったいないっていうか。戦後初と聞くと尚更そう思う。

Q2. 今年度は有志によって、サンロード商店街や柳町商店街でイベントが行われています。例年と異なる規模とはいえ、絵どうろうまつりが開催されている今の心境を教えてください。

やれる最大限のことをやってもらったと思う一方、やはり寂しいという思いや「本当だったら今日はこんなに賑やかだったのに…」という思いがあるかな。また復活すればいいけど、このままなくともいいな、ってなっちゃうのは怖いかな。いつもは店の前で鮎や貝を焼いて、宴会が開かれていたので、それが無くなってしまった。

本当だったら前の日忙しく配達していたりするけど、短冊もないし…。結局うちの店で売るようなものは、うちの前で飲む人たちが買うようなものではないけど、「こういう店あつたんだ」、「次、入ってみようかな」っていうきっかけにはなるので。商店街の立場からすると、そういうきっかけづくりにはなるので、それがいいのは…。曜日に左右されて、来年にはいい日に当たるので期待したい。今回の祭りも去年の（絵どうろう）を綺麗に保存している人がいたからこそできているんだし、そういうことは有りがたいと思います。

Q3. 私たちがこれまで行ってきたアンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、今後まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

もうね、私が心配することは、私たちより上の世代が同じことで心配していて。現状で更に更にどんどんと。私たちのおじいちゃんおばあちゃんは本当に戦争中の人で、1月から12月まで様々な行事があることを知っていて、ほら、「何月何日に何をする」って。そういうことも、もう私たちは知らなくて祭りだけ、クリスマスだけという感じで。本当に色々な行事があったけど、もうそこには無くなってしまって、知らない。いずれはお祭りとかが無くなってしまえば、若い世代は「ああ、お祭りあったんだ」みたいなことになっていくんだろうなとは思う。例えばお盆に何準備して、とかははっきり言って私なんか知らないし、おばあ

ちゃんが出していったなとか、そういう感覚で。同じような流れでだんだん何となく「ああ、無くなつたんだ」で無くなつてしまふのかなと思う。

知らないことが当たり前になつてしまふ。大名行列とかも、七夕の後にやつていて、当時、私がまだ子どもの頃は本格的にやつていて、着物を着せる人とかもいた。今はもう着せられないから、(着脱は) マジックテープですよね。行列で歩く人も簡素化して。昔は当番になつた家がお道具持つてとか、昔の着物を出してとか、大々的にやつていた。でも今は(着物を) 着られない・着せられない。そんな感覚で、七夕に限らずお祭りとかもいづれ…。

ただ、人が出るきっかけとして青年部の人が色々と企画してくれてはいるけど、本来のお祭りの形ではなくなる、とは思うんです。

Q4. 絵どうろうまつりに関わつていて、どんな時にやりがいや喜びを感じますか？

七夕は日にちありきなので、商店街としては金・土・日の日程になって、お客様が多く来つてくれて。もちろん商品を買つてくれたら嬉しいけど、賑やかになつた時かな。店としては、その時に「ディスプレイ変えといつよかつたな」ってなつたり、課題が出てきたりして、そういう人の動きや商店としての達成感はあるし、逆に今まで絵どうろうを書いてもらつていた絵師の方が亡くなつてしまつて、今年は協力していない感が少しあるな。「祭りなんてどうでもいいや」と思う人も、この商店街でもいるけど「せめて竹ぐらいは…」という思いはあるし、そういう点での達成感はあると思う。「今年もいい絵が飾れたな」とか、「短冊ぐらいは出せたな」って。短冊って出すのは地味に大変で。1個ずつこよりをつけたりして。それを竹に1つずつ付けて、脚立を2つ並べてバランスよく立てるんですよ！

Q5. 今後の絵どうろうまつりを、商店街としてはどのように盛り上げていきたいですか？

車社会になつてしまい、ポスターを貼つても見ないっていうパターンが多くて…。別の活動でポスターを貼らせてもらつて商店街を回るんですけど、結局貼つても見るのは車からだから、いつやるのか分からぬとか。実は盛り上がつてはいるのは中心部だけで、郊外では知らない人がやっぱり多い。子どもに言うとうるさいからって、昔は夏休みのお楽しみだつたけど、今はそもそもいかなくなつて。本当にこの辺(商店街)ね。私なんて、家を出れば七夕！という環境で育つたから、連れてつてもらつていう感覚はないんだけど、結局こら辺以外の小学生だと、何年生まで親がいないと来れないっていうのがあって。そうなると面倒だから親も子どもに(祭りのことを)言わぬいっていうのがあるんだよね。

Q6. 最後に、あなたにとって湯沢七夕絵どうろうまつりとは？

大名行列もいいんですけど、どちらかといつと地元の楽しみ方というものが半分なので、そういう意味では七夕の方が幅広く楽しめるし、私はどちらかと言えば七夕のほうが好きな。

☆昔のお祭りの様子についても、お話を聞いていただきました

(トミヤさん) 昔七夕の時って本当に凄かったんです。人とぶつかって歩く感じ！道路も狭かったし、何だろうぼんぼりみたいな、吹き流し！あれがやっぱりここにもあって、それこそ夜な夜な作っていました。お楽しみで、それも賞がついたので。

(観光物産協会：佐藤さん) 商店さんではな、吹き流しをおばあちゃんが折っていたり、店員さんが折っていたり…。でも今はほとんどない。1回吹き流しを復活させて何度かやったけど、とてもじゃないけど…。1度、私の考えで老人ホームや幼稚園に外注してやってもらって、材料だけ渡してやればいいかなという企画でやったけど、とてもでないけど大変だった。花っこを入れる竹かごが湯沢に無いからって、県内で探したら県内にもなくて、結局仙台まで探しに行った。でもどうやって回収する？って。もう10年くらいはやってないね。

(絵灯ろう保存会：山脇さん) でも、昔はよく商店もやってくれていたなって思う。

(観光物産協会：佐藤さん) 昔はマンパワーがあった。ありがたいことだったなってつくづく思うよ。昔は手があったもんね。絵どうろうに屋号を入れたりもして。そのうち手飾りも竹の短冊も無くなれば、絵どうろうは無くさないように！って頑張っているけど、それこそ絵どうろうだけ裸で飾っているようなもんだ。絵どうろうがあって、飾りや吹き流しがあってこそ風情があるのにこれらがみんななくなると味気ないな…。

とみやセトモノ店・カクトトミヤさんの店内にて、「まちの駅 Café 結」が2020年8月8日にオープンしました！

絵どうろうまつりの時に、「休憩スペースがない！」というお客様の声を取り入れたそうです。皆さんも是非お立ち寄りくださいませ！



取材時はオープン前日でしたが、お料理の良い香りがしました…♡

湯沢市絵灯ろう保存会会長 絵師：首藤ミ工さん

Q1. これまで毎年開催されてきたまつりの中止を受け、どのように感じましたか？改めて感じたことやまつりに対する考え方にはどのように変化がありましたか？

まずショックです。いつも七夕に向けて頑張っておりますけど、途中、こういうお話（祭りの中止）が出て、なんか力が抜けたような感じがしていますけれども、次があると思って、持続して頑張っております。

—普段のお祭りが開催されるっていう時は、どのくらい前から描き始めているのですか？
その描き手によって色々ですけども、（作品が）多くある方は年中みたいな感じです。後は、年が明けてから描くとか、色々な人があります。

Q2. 絵どうろうの職人歴と絵師になつたきっかけを教えてください。

振り返ってみると、七夕まつりの絵を見に来て、感動して魅せられた、という感じで。どのようにして描くのかなあ、と色々不思議な点が沢山あって、挑戦してみようかな！という感じで。講習会に携わってから、完成してみると、やっぱり自分なりの描いた絵ながらも、明かりを入れてみると、感動するっていう。そういう楽しさがあって、それからやみ付きになって、今に至っているんです。平成6年からずっと続けております。

やっぱりいくらやっても深みのある絵どうろうですので、自分なりに満足すれば楽しくて、またやってみたいという気持ちが湧いてきます。そういう気持ち持ってくれる人を、沢山いてもらわないと、湯沢の七夕の絵どうろうも中々絵が大きいから、一生懸命誘って、楽しさを伝えながら、人数増えてもらえるような、そういう感じで頑張っています。

初めて取り掛かる人は、色々説明はしますけど、何言ってるか分からなっていいう、そういう理解するのに難儀するみたいですが、色の使い方とかそれなりの工程の、良くできる秘訣がありますので、そういうのを知って帰って満足して、楽しさを感じて、持続してくれる方もおります。そういう方を大事にして、長く描いてもらえるように頑張っています。

Q3. 私たちがこれまで行ってきた来場者アンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

うーんそうですね…、やはり人口も減ってきてるし、絵は盛大に、お祭りはやりたいし…。

—やっぱりそのためには描き手さんもいっぱい…

そうそう。楽しさをもっと伝えて、描き手さんたちを増やしていくように、頑張っておられます。

—首藤さんは、湯沢市のご出身なんですか？

昔は湯沢市内でした(笑)今は横手市の方にいます。

—それで昔から見に来ていたという感じですか？

でも離れている反面、良い面が結構あるんですよ！自分の時間を行事の度に費やさなくていいし、じっくり構えることができて、最初から最後まで、自分が携わってやることができるので。その点プラスになっているかなあと。

やはり湯沢市は七夕もあって、お盆もあって、お祭りもあって…、行事が重なっていたので、市内の女性たちは中々、主婦業もあるし、大変みたいなんですよ。だから講習会をやると、半分が市外の方、いらっしゃいますね。我々離れていると、好きな時間に、いくらでも時間作って（絵どうろうの制作が）できるんだけど、やっぱり、湯沢市内の主婦さんたちは、色々時間とるに難しいかなあと思います。

Q4. ベテランの絵師さんからみた、若手絵師さん（職人歴5～10年の方）の印象は？

やはり、好きで描いていますので、それなりに新鮮さがあって、我々逆に勉強になります。

—色使いや絵のタッチが違う点があるんですか？

うん、それもやっぱりその人の個性があるので、意外と楽しい描き方している人もいらっしゃいます。

Q5. 絵どうろうまつりに関わっていて、どんな時にやりがいや喜びを感じますか？

達成感ね。まず明かりを入れないで、色付けして、「これでいいな！」と思って、外して明かりを入れた時に、どういう感じになって現れてくるか。色の深さとか、全体的なバランスの、色の出し方とか、そういうのを見て、自分なりに満足すると達成感は感じられます。

「まだまだ」って感じる時は、再度色を入れ直しして、仕上げます。色付けしても、3分の2くらいかな、色が出てきて。明かりで大分消されるんですよ。そうすると深みのある絵が何となく、今の日本画のように影の付かないような感じが出てくるので、立体感のあるような深みのある色を使いながら、色を付けていきます。

Q6. 今後の絵どうろうまつりを、絵師としてはどのように盛り上げていきたいですか？

やっぱりお客様が絵の前に立ち止まって、「素敵だなあ」って眺めてくれれば。私たちはそれを一番気にします。お客様どういう反応で見てくれるかなあ。だからちょっとこう、和やかな感じの表情した顔とか、絵の構図で物語のあるような感じにしてやるとか。私たちも七夕の時は、町の中に出ますけども、絵も見ますけども、お客様がどういう反応で見てくれるか、それが一番気にします！次回のためにもなりますので。**お客様が沢山見に来て**

いただけけるような、絵の中にも楽しい雰囲気を作つて、そういう気持ちを持って制作します。笑つてゐる絵描くときは、自分も笑つてます！その人物になりきる！っていう。上手くはないんですけど、自分なりにそういう感じをしながら、描いています。

Q7. 来年の湯沢七夕絵どうろうまつりに向けて、意気込みをお願いします！

湯沢市の方でも、大分力強い宣伝をしてくれておりますので、それに来るお客様にガッカリされないような、そういう、見て「素晴らしい！」って言ってもらえるような、そういう方に力を入れて、頑張つてます。

絵師：阿部さん

Q1. これまで毎年開催されてきたまつりの中止を受け、どのように感じましたか？改めて感じたことやまつりに対する考え方にはどのように変化がありましたか？

そうですね、まつりに向けて一生懸命やっていたので、急に目標が無くなっちゃった感じで。今年描き始めた 2m3m の絵どうろうが壁に張ったままで、その後進んでいません。まだ手を付けない状態でいます。

—絵どうろうは大分早い時期から描き始めるのですか？

そうですね。絵を描き始める前から、準備の段階があって、色々資料を調べたり、図書館に通って好きな絵を探したりして、その中からどれにしようか？っていうことをします。選ぶ段階から、あと描く準備も結構あるので。紙のどの辺に人物を配置するだとか、色々考えてやるので、結構前から準備はしていますね。描き始めるまで結構かかります。

Q2. 絵どうろうの職人歴と絵師になつたきっかけを教えてください。

私は年数だけはね、29年か30年くらいになるかな。一度でいいから自分の絵を七夕で飾ってみたいなと思って始めたら、もうやみ付きで。小さい頃から私絵を描くことが好きだったので、描いていると楽しいんです。ご飯も食べなくていいくらい楽しくて！もう大好きでたまらないです！何があってもそれだけは止めたくない。一時期ちょっと描けない時期もあったんだけども、仕事をしながら細々と続けてきました。それで、大きいのを描くようになったのはもう最近で。退職してから時間ができたので、やつたら増え楽しいし、何があつても楽しいです！とにかく好きなんですね、描くことが。でもこの先、いっぱい描く人がいないと祭りもどうなっちゃうのかな…と思って。皆さんでもいいんですよ？！(笑)ぜひ若い方にやってもらいたいなあと思います。私たちも年配だけじゃ心配ですから！

Q3. 私たちがこれまで行ってきた来場者アンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

今大きい絵を描いている方が、みんな高齢になってきているので、次の人たちが育ってくれないと、せっかくのまつりも肝心の絵がないと祭りにならないし、絵は1日や2日で出来るもんじゃないので、根気のいる仕事なので。やっぱり時間もかかるし、描ける環境や時間も取れないと描けないとと思うので、ぜひ若い皆さんのが参加して繋いでいってほしいなとは思います。

—阿部さんは、湯沢市のご出身なんですか？

元湯沢です(笑)私が参加したときは、今は湯沢市ですけど私は皆瀬なので、その頃はあんまり湯沢市外の人っていなかったんですよ。でも、家から来るのに30分40分かかるので、仕事終わってから、ご飯も食べないで夜駆けつけて、絵筆を持って描いていました。

時々絵筆を持っているとね、お腹が空いて、なんか絵筆をちょっと口にもっていきそうになったりすることも度々ありました(笑)でもね、楽しいんですよね、それがね！今は結構市外の方が多いですよね。私が来た頃はあんまりいませんでした。

Q4. ベテランの絵師さんからみた、若手絵師さん（職人歴5～10年の方）の印象は？

私たちは教えられたことをそのままやってきたような気がするんだけども、今の若い方々、感覚が違うので、「こういうやりかたもあるのか！」となることがいっぱいありますけど。あと専門に美術の方に勉強している方もいるので、やっぱり皆さん上手なような気がします。

—その方たちは将来有望ですか？

ええ！…続けてもらえば(笑)そこなんですよね。

Q5. 絵どうろうまつりに関わっていて、どんな時にやりがいや喜びを感じますか？

そうですね、やっぱりさっきも言ったように、何ヶ月も前から下絵の段階から準備して、下絵を描いて、墨を入れて、色を少しずつ何回も何回も重ねていって、「あ！これで仕上がったな！」って。やっぱりそれが一番、やったって思う瞬間ですね。それで、私たちは自分の好きなものを描いているんだけど、その描いたものを、私たちは描けばもう係の方にお渡しすればいいんだけど、それをちゃんと木枠に貼って、展示してくれるっていう。やっぱり裏方さんがいるから、私たちは描いても、報われます。裏方さんの力が大きいなと思います。私たちはただ描くだけだから、裏方さんと一緒にになって飾った時に、できたんだな！って思いますね。

—自分の納得する絵ができること、それ自体にも満足しますか？

そうです。うーん、それがなかなかいかないんですよ(笑)毎回描く度に、「あ！今日色塗り失敗しちゃった…」とか「ちょっと墨の線が悪かった…」とか、いっぱい反省の点ばっかりあって、なかなか進まないこともありますね。

Q6. 今後の絵どうろうまつりを、絵師としてはどのように盛り上げていきたいですか？

何枚描いても、何回描いても、なんかいつも「こうしなきゃよかった」「ああしなきゃよかった」って、いつも反省ばっかり残るんですが、皆さんを見て「良かったよ！」と

言ってくれると、それが励みになりますね。

Q7. 来年の湯沢七夕絵どうろうまつりに向けて、意気込みをお願いします！

今年無かった分、来年はあるかなって思って、もう秋頃から、ちょっと丁寧に描き始めようかな、とは思っているんですね。それで、どうしても急いだり気がそぞろだったりすると、良い作品はできないと思うので、やっぱり気持ちを込めて、丁寧に描いていきたいなあと。来年見に来てもらえるようにしたいなあと思っています。

絵師：高橋岳雄さん

Q1. これまで毎年開催されてきたまつりの中止を受け、どのように感じましたか？改めて感じたことやまつりに対する考え方にはどのように変化がありましたか？

七夕が飾られない七夕っていうのは、初めて経験しました。何とかしてコロナが鎮まつてね？（まつりが開催）できるんじゃないかと期待は持っていたんですけど、**今年中止だっていったときは、もうスパッと諦めましたね。**今年はまず飾らないんだ、っていう。七夕なくなると。それからはできることをやりましたね。今まで忙しくてやれてなかったこと。

—今まで一年中描いていたんですか？

そうです！だから暇がなくて、例えば色んな絵の本を読んで勉強したいと思って、本を買っても「これいつ読むんだ？！」とかね。やっぱりやれないっていうこといっぱいあると思うんですよ。こういう機会だから、次のまつりのために絵をどんなもんにしたもんか？っていう。こういうあまり良くない状況で、どんな風にしたらしっくりくる絵を描けるんだろうか？とかね。そんなことを考えていましたね。

Q2. 今年度は有志によって、サンロード商店街や柳町商店街でイベントが行われています。例年と異なる規模とはいえ、絵どうろうまつりが開催されていることについて、どう思いますか？

あれはおそらく観光というような、大きい目標とは別に、**地元の人たちがね、自分たちが楽しむとか、願いを込めるということだけでやったので、ごく自然な事のような気がします。**人が集まつたりしないような七夕であれば良いと判断したんじゃないでしょうかね。ここで気を付けたいのは、やっぱり外から来る人たちが持ち込むとか、あるいは感染してしまうっていうことだと思いますから。非常に、来年に向けて良い、励みになるようなイベントとだったと思います。

Q3. 絵どうろうの職人歴と絵師になつたきっかけを教えてください。

私は**子供の時から描いていました。**小学3年生くらいからは描いていたと思います。戦後の時期に、日本中の絵描きさんが描いても食べられない時代が続いていたんです。その間湯沢に、割と著名な日本画の先生たちが来ていたんです。少しでも収入があるっていうことで。私の家が教具屋をやっていましたので。教具って掛け軸とか、額の装丁する仕事です。そういう縁であちこちで食べられない日本画の先生たちに、「まあ湯沢に来て描かないか？」と。それで、1番最後に依頼した先生は、千葉県の松戸市から来た、坂本紅葉さんっていう日本画家でした。当時、私は高校生で、「もっと整理しなさい」とか、色んなことをご指導いただいて。その時は分かりませんでしたよ(笑)

湯沢には絵を描く人が段々いなくなっていて、帰ってくるのにいいなっていうので。それでそこら辺から、やってみようということになりました。ですから最初は1枚の絵を描いても、2000円とかね。1枚2000円とか3000円とか。当時は、湯沢の商店街のちゃんとした絵師さんに頼むものでもなくて、皆が描くっていう伝統だったんですよ。ですから「私に描かせてください！」という感じで、お願いしたとこもあります。学生の頃、夏休みは早めに帰ってきて、描いていたらやっぱり少しづつ、「こんくらい描いているんだから、これくらい描けるな！」っていう、少しづつ（技術が）上がっていったんです（笑）本当に少しづつですね。暮らせる仕事ではなかったんですけど、でもこれをやりたいために湯沢で何かしようっていうんで、他の仕事もしましたけどね。結局、絵を描きたいという気持ちちは止められなかったんですね。色々なところで色々なことをしましたけど、やっぱりこういうところにいるんですね。皆さんも好きなことに、夢中になれるようなことに、仕事に就いたりやったりした方がいいですよ。

市役所の税務課の人には最初散々怒られましたよ。あなたこれでどうやって食べてんですか？って（笑）でもこれを描かないっていう時は無かったんです。何やっても。夜中でも、朝まででも、やってましたね。好きなことじゃないとできないんじゃないでしょうか？大抵ここ（高橋さんの作業部屋）に色々な人たち来てくれて、最高で10人くらいの人たちが、手伝ったり描いたりしてくれたことがあるんですけど、その人たちの中でも、やっぱり経済と合わないんですね。どうしてでも。そのために辞めていく人いたんですけど、結局好きだからまずお金関係なく描く、という人だけが残っている感じです。本当にこれをしないと、死んでも死にきれないというものに出会ったら、それをするほうが良いですね。しないうちは「俺何のために生きてきたんだ」っていうことになりますからね。

きっかけは、小さい頃に絵を描いていて、意外と賞を貰っていたんです。やっぱり賞を貰って、褒美でノートとかバインダーブックとかね、文房具を商品で貰ったりすると、非常に嬉しかったんですね。ああなんか描いたので誰か良いと思ってくれだ人いたんだっていうのが伝わりますから。だからある程度「コンクール」はいいと思いますね。

—モチベーションになるんですね。

そうです。これ一応祭りですから、一つの大きい遊びだと思いますけど、やっぱりそういう励みになるようなもので、評価してあげるっていうのは大事かと思いますね。その子が今度成長して、何になるか分からぬわけですね。その時に色々評価されたっていうのが、少しづつ自身に繋がってくるんじゃないでしょうかね。

Q4. 私たちがこれまで行ってきた来場者アンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

不安ですか？まあ…後の方がこのお祭り良い祭りだから、続けよう！と思えば人が少な

くても続くんじゃないでしょうかね。ただ、その人たちがあんまり「こうじゃなく別のにしよう！」とかね、「自分たちで新しく作ろう！」っていう機運が生まれるかもしれないです。今後の人たちがやっぱり決めることなんでしょうね。…残したいですけどね！

だから、**もしなくなったら残念は残念ですね。**残念だって言っても、それはもう止められないこともありますから。この絵をわざわざあまりお金も関係なく描いたりする人なんてのは、あまり出てこないかもしれませんしね。資本主義の社会ですから、どうしても経済を優先してしまいます。ですから、手間はかかるし面倒くさいし、っていうようなことをやり続けるのは、**やっぱりよっぽど好きじゃないとできないんじゃないかなって**気はしますね。ただ好きな人たちが、どういう形であれ繋いでくれることを期待していますね。

Q5. ベテランの絵師さんからみた、若手絵師さん（職人歴5～10年の方）の印象は？

期待する人もいますね！絵どうろは、**多分10年くらいやって、ある程度描けるという風になってからが勝負なんですよ。**1回こういう大きい絵を描いて飾ってね、何かで賞を頂いたりして、そっからが本当に（絵師として）仕事になっていくんじゃないでしょうかね。仕事っていいですか、深みっていいですか。

最初はみんな何か浮世絵とか美人画っていう伝統を繼いでいますから、最初はやっぱり模写から始めてしまうんです。色々な昔の絵を参考にして描いていって。そうしないと成り立たないんですね。線は毛筆でこんな風に引く、とか、色はこんな風に塗る、とかっていうのは、やっぱり伝統ですから。技術をまず覚えるっていう。それがしっかりできるまで、大分長いことかかりますね。それから、今度は昔の絵をそのまま描くだけじゃ上手くないから、自分で工夫していくっていう工程になる。それを始めると、今まで10日くらいで出来た絵が、1ヶ月かかっても出来ないっていうことになるんです。そうすると経済と益々合わない。そういうことの繰り返しでしたね。

—絵を描くことが好きだからこそ、続けてこられた？

そうですね。そういうのは好きな人たちが、好きで描く場っていうのは残したいですね。

Q6. 絵どうろうまつりに関わっていて、どんな時にやりがいや喜びを感じますか？

福島県から毎年見に来てくれる人がいるんです。その方が自分の家にも絵どうろを飾りたいって注文してくれてね。んで今度その人が、また（絵どうろを）好きな人いるからその人の分も描いてくれ、とか。そうやって描いたりもしましたし、やっぱり湯沢以外の外からそういう依頼を受けたりすると、**非常に嬉しいですね。**こういう絵でも、どっかで好いてくれる人がいるっていうことが、良いんじゃないでしょうかね。

今、神奈川県の伊勢原市に大山っていうところがあるんですけど、伊勢まで行けない人のために、大山詣出っていうのがあったそうなんです。そこの参道に、お盆の頃にずっと（絵

どうろうを) 飾るんですよ。そこから依頼がありましてね、今まで随分行っていますけど、そういうところでも湯沢の絵が良いもんだなあと思ってくれる人たちが何人かいて。ちょっと教えてくれっていうことで講師にも行ったりしてるんですけど。でもそうすると、もう何年かすると地元の人が描きだしますでしょう? そうして湯沢とはちょっと違う傾向な絵になってくる。そういうのが良いんじゃないでしょうかね?

Q7. 今後の絵どうろうまつりを、絵師としてはどのように盛り上げていきたいですか?

やっぱり僕ができることは、なるべく見てもらえる絵を描くことぐらいですかね。何か感じてもらえるような絵ですね。あんまり派手に描いて出しやばるよりも、なんか1つの世界に引き込みたいといいますか。そういう世界を味わえるような絵ですね。そんな絵が描けたらいいなと、毎年描けないでいますけどね(笑)中々そうはいかないんです。それと、時代が変わると色んな人たちの好みが変わってきますでしょう? するとそれとのギャップが出てきますしね。

—今後は時代に合わせて描いていきますか?

いやあ～でもアニメ画は描けないですねえ。それから美少女も多分描かない…、依頼で描いたことがありますけど、描かないと思いますね。大概「お任せします」って言ってくれるお店多いですから。そういうところには、わざわざイラストっぽい絵はあんまり描かないと思いますね。でもそういう絵を若い方が描く分には、一向に良いような気がします。

(絵どうろうは)裏表ありますから、それをまた使い分けて、描かれるといいと思います。良いなあと思う構図の、かなりの部分がもう浮世絵にありますからね。そういうのから構図を参考にしながら、こんな構図で今の時代にあった絵っていうのは考えていきますね。

Q8. 最後に、あなたにとって湯沢七夕絵どうろうまつりとは?

いやあ～、…それはすぐに一言で言えないものですね、きっと。どんなものなんでしょうね? 自分の中でみんな繋がっているんでしょうね。

絵どうろうでは、よく花を描いたりしますでしょう? すると今度どんな花にしようか? って描く花を見に行きます。ですから、自分の行動がみんなここ(絵どうろう)に集まるようになっているかもしれませんね。それでも思うようにはいかないし、思う通りには描けないんです。だから時間はもっと欲しいと、いつも思いますね。絵を描いていても足りないですし、何かしようと思っても不勉強だし、知らないことがいつまでたっても多いんですよ。

葛飾北斎先生の「波打つ富士」分かりますでしょう? あれを描いた北斎でさえ、90歳を過ぎてから「やっと本当の絵が描けるかもしれない!」とかね。「100歳なったらもっといい絵が描ける!」とか言っていましたから。やっぱりそれまで色んなことをやっていて、自分でも自分の望むところに至らないと思ってたんじゃないでしょうかね。何をやってても足りなさは感じますね。色んな勉強したいこと、いっぱいありますね! いつやるんだろうつ

て、そのうちもう来年の絵どうろうをね、描かなきゃいけなくなりますから。8月過ぎればね。来年のモードに入ると、また勉強が足りなかつたなって思うんですよね(笑)そこまでいけばまた奥があるし、きりが無いのでしょうか。

(インタビューの他に、絵どうろうについての詳しいお話をもしていただきました)



—この絵はいつから描き始めたのですか？

去年の12月の暮れくらいから。少しやっていないと、本当に七夕の4日くらいまで描いているんですよ。それに出来なきゃいけないと思って、できるだけ早く。きりないからですね。「これでいい！」っていう絵がなくて、ただだから間に合わせなきゃいけないっていう制約だけはあるもんですから。ですから、夢中になってやった絵は割とね？きっとできるんですけど、「まずしようがない！ここでやめよう！」って言って、止めてしまうんですよ。

これは地元の介護施設にお願いされていたもので。毎年春くらいに飾って見せたいっていうので描いているんです。いつも3月4月くらいには納品していたんですよ。桜の季節なので、そこに行けない方に、ちょっと桜を送ろうと。だけどコロナで、家族でさえ面会できないう状態でしたので、「ああじゃあ今年はしようがない…」っていう。まあでもこれもここでやめてもっと手を加えれば、細かくはできるんですけど、やっぱり時間かかり過ぎて。そうすると、私たち生活できなくなるんです。それほど値段として高いものでない

ので。だからやむを得ず、こういうところで一時中断して。

(絵の制作について)

この白い部分は脱色してやっているんですけど、大抵の人は脱色の仕方をあんまりよく分からないんじゃないかなあと。今講習会で脱色する人いないもんね。一回全部塗ってしまうんですけど、後で色抜きするんです。

—どうやって色を抜くのですか？

筆で、一つずつ。水をつけて。ハイターとかブリーチで良いんですけど、その濃度があるんです。原液でやると、紙が破損してしまうので。

—白いところは最初から塗らない方法もあるとお聞きしたのですが…

あ！塗らない方法ってのは、そこにアクリルを塗つておくとかね、口ウで塗つておくと色は塗れなくなります。でもそれだと、非常に金属的な感じになってしまふので、光過ぎるんですね。だからあんまり出しゃばらないで、溶けるようにやるには、やっぱり脱色にしないとダメかもしれないですね。

アクリルは色を塗った上に、擦らないように被せる、という方法か、あるいはアクリルに色を混ぜるっていう方法があります。ただ、少し粘っこいので、ぼかしたりするときは不向きですね。塗りにくいです。混ぜたものでやると、完全に色止めなりますから。ただ灯りを入れた時に、より明るくパア～っと見えるのは、やっぱり口ウなんですよ。この口ウが日中に西日で溶けますでしょ？色んな直射日光でね。ですから、なるべく良いと思った絵は夕方から出したほうが良いですよって言うんですけど、そもそもいかないんですよね(笑)だからそういう祭りだという風に、繊細な祭りだという風にしても、それはそれですね。ですから溶けないために、アクリルで、日が当たっても良いようにね、アクリルだけでやる場合もあるんですね。でも灯りを入れた時の出（出方）が違うために、やっぱり口ウは口ウで使いたいんですね。

—この絵はどこから描き始めたのですか？

最初はデッサンです。どこからということはないんですけど、やっぱり人から最初に描きますね。しかもやっぱり顔の部分が最初ですね。顔・髪・着物つていっても、ラフで描いていきますから、そのうちどっから描いていったらいいかっていう、その絵によって変わってくると思います。

—この大きさのものに下書きしていくんですか？

そうです。これはここで描く絵の大体普通の大きさ、ここではこれが普通の大きさです。これより大きい絵もいっぱいありますから。

—このサイズが大型ですか？

これは大型になります。縦 2m10cm の横 3mですね。ここになると一応大型ということになるみたいですね。2m10cm の 10cm という半端につくのは、昔の計算で 7 尺っていう

サイズがあるんです。7尺10尺っていう寸法になると、この大きさに。すると紙も合ってくるんです。あとは比率も、非常に見やすい比率になりますね。ただこの10cmのおかげで、玄関から入らないので、「2mにしてください！」っていう場合も結構あるんですよ。

—そうするとバランスは全然違うのですか？

そうですね、横が長く見えすぎて。この遠目に見た時に、絵が小さくなりすぎるんですね。バランスを保とうとすると。でもその違和感が良くて、わざと細長いのとか、縦に長いのとかを描く場合もありますけどね。私たちは色んなお店の注文でやりますので、そこでどういう絵を望んでいるのかな？っていうのは、よく打ち合わせをします。結構そこの家の人人が、例えば「こういう紫がいい！」というところは紫の絵にするとかですね、それくらいはもうできますからね。「黄色がパッとしていいな！」というところには黄色を使ってね、描いてみたり。色んなことをしていますよ。

皆さんの感覚で、この絵は何を描いた絵だと思いますか？

—何かに思いをはせているような…

恋の初めなんです、春は。こんな歌を知らないですか？

「春には二重に巻いた帯 三重に巻いても余る秋」

春にはちゃんと二重に巻いてね、帯がちゃんとできていたのに、秋になつたら恋裏れで、三重に巻いてもね、まだその帯が余る、と。だからこれには対にもう一つ秋の絵があってね、もう少し痩せた女性描いても良いかもしないですね。でも、それを大抵七夕のお祭りの雰囲気の中で見てくれる人はそうそういないんです。大概、描き手は何かの思いを込めますから、さりげなくね。やっぱり誰かを好きになったりすると、食べ物が喉を通らなくて、どうしてもやつれるなんてこと、起きないですか皆さん？それを経験するかしないかで、後の人生成るかもしれませんよ。



インタビューの様子（右: 高橋さん）



絵どうろうの制作に使用する画材

一般社団法人湯沢市観光物産協会 事務局長：佐藤隆康さん

Q1. これまで毎年開催されてきた湯沢七夕絵どうろうまつりですが、どういった思いで中止の判断をしましたか？また、中止になったことで改めて感じたことや、まつりに対する考え方方に変化がありましたら、教えてください。

長年、途切れることなく続けられてきたまつりを中止することは、本当に残念でした。まつりを開催することにより他県との交流が生じ、新型コロナウイルスの感染リスクが高くなり、感染が拡大することを恐れ、やむなく中止を決めました。**七夕絵どうろうまつりは、湯沢の夏の一大行事です。生活の潤いが、湯沢市の夏の最大のまつりができるないことが、残念でなりません。**職業柄、年中行事とともに過ごしていることから、祭り自体がなくなつたことが季節を失つた感じがします。町の賑わいが感じられることもなく、気持ちに潤いが失われた感じがします。七夕絵どうろうまつりは湯沢市になくてはならない風物詩です。

Q2. 今年度は有志によって、サンロード商店街や柳町商店街でイベントが行われました。例年と異なる規模とはいえ、絵どうろうまつりが開催されると聞いたときはどのように思いましたか？また、当日の様子を見た際の感想もお聞かせください。

小規模ながら竹飾りと絵どうろうが展示されることで、何もなかつたという夏からすれば気持ちが浮き立ちました。イベント自体は、それなりの雰囲気を出ましたが、車両を通行止めにし、開放感あふれるものには程遠いものでした。しかし、**制限されている中で最大の催し物ができたのではないか**と思います。

Q3. 私たちがこれまで行ってきた来場者アンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、まつりが衰退してしまうかもしれない、という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

祭りの継承に大きな不安を感じます。かつては、商店街が競って絵どうろうを出した時代がありました。これを、市のバックアップをいただきながらN P O法人（ゆざわ七夕絵灯ろう活性化協会）や商店街、各種団体、あるいは個人が思いを込めて実施してきたまつりだと思います。絵どうろうの描き手は、絵どうろう制作講習会で育成してきてはいるものの、大型が描ける作家が育っていません。**絵どうろうの技術は奥が深く、スポンサーが取れる作品を描き上げる力が付くまで長い年数を費やします。**また、N P O法人の力で、絵どうろうの確保が定着してきているものの、市の補助金をいただかないと運営がままならないところもあります。

Q4. 今後の絵どうろうまつりを、運営側としてはどのように盛り上げていきたいですか？

これまでと同様に実行委員会を組織し、**市民や団体とともに一緒に盛り上げていきたい**と思っています。また、これまでの時代とともに歩んできたまつりでもありますので、時代に合わせた運営をしていきたいと思っています。

Q5. 最後に、あなたにとって湯沢七夕絵どうろうまつりとは？

湯沢の夏の風物詩です。子どもからお年寄りまで集える、大切な年中行事です。また、**観光客に湯沢をアピールできる世界で唯一の夏祭り**です。

一般社団法人湯沢市観光物産協会 事務局：菅原彰浩さん

Q1. これまで毎年開催されてきた湯沢七夕絵どうろうまつりですが、どういった思いで中止の判断をしましたか？また、中止になったことで改めて感じたことや、まつりに対する考え方方に変化がありましたら、教えてください。

実行委員会で協議の末に感染症拡大防止の観点から中止を決定いたしました。私はまつりの主担当で、年間の多くの時間をまつり成功のために費やすのが常でしたので、残念ではありましたが、**今一番に考えなければいけないのは新型コロナウイルス感染症対策でありますので、当然の判断であった**と考えています。

先にも述べたとおり、まつり運営が私の主だった業務でしたので、中止自体に喪失感を感じておりますし、絵どうろうまつりは湯沢市を大いにアピールするとともに地域が一丸となって盛り上がる機会ですので、改めて私にとっても湯沢市にとってなくてはならないものだと再認識しました。

Q2. 今年度は有志によって、サンロード商店街や柳町商店街でイベントが行われました。例年と異なる規模とはいえ、絵どうろうまつりが開催されると聞いたときはどのように思いましたか？また、当日の様子を見た際の感想もお聞かせください。

私は「まつり」というものには**“他地域から人を呼び込んで、その地域を知って楽しんでもらう観光的な側面”**と**“その地域に住む人々がまつりに参加する過程で地域の良さを再確認し、地元の活力を作る側面”**があると考えています。感染症の影響で人を呼び込む行為を控えなければならない現状で、商店街の方々を中心に実施したまつりは、主に地元の方や帰省した方々を対象としたものだと認識しています。改めて湯沢市の良さを地元の方々が再確認する良い機会になったと感じております。

当日は、例年であれば会場となる湯沢市中心商店街を忙しく奔走していたので、それがないというのは不思議な気持ちでしたが、**商店街の方々のご尽力により街中に絵どうろうが飾られている景色は素直に嬉しい**ものでした。

Q3. 私たちがこれまで行ってきた来場者アンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

不安は当然ありますが、協会としては**伝統継承のために将来的なビジョンを持ち、やれることをやっていく必要がある**と感じています。

Q4. 今後の絵どうろうまつりを、運営側としてはどのように盛り上げていきたいですか？

まずは感染症に対して有効な対策が確立させることを願っています。まつりが再開する暁には、地域的に解決していかなければ課題などもあると思いますが、[湯沢市に訪れる人や地域の方に楽しんでもらえるよう尽力したい](#)と思います。

Q5. 最後に、あなたにとって湯沢七夕絵どうろうまつりとは？

[地域の大きなシンボルのひとつ](#)であり、なくてはならないものです。

湯沢七夕絵どうろうまつり実行委員長：京野健幸さん

Q1. これまで毎年開催されてきた湯沢七夕絵どうろうまつりですが、どういった思いで中止の判断をしましたか？また、中止になったことで改めて感じたことや、まつりに対する考え方方に変化がありましたら、教えてください。

もともと日本の祭りというのは、神事から始まり、五穀豊穣や平和などを願う祈祷へと変わり、大衆娯楽化していったものと言われています。つまり、もともと地域住民が地域のために行ってきたものですが、大衆娯楽化が進むにつれて観光化され、地域外からの来訪者が増えてきたという歴史があります。

今回の COVID-19 は、人が集まること、さらに言えば人の往来が大きなリスクとなるとされていたので、**地域内外から不特定多数の人が集まる祭りの中止は致し方なかったもの**と考えています。ただ、**戦時を除きずっと開催されてきた「七夕絵どうろうまつり」を中止するということ**、そして、**絵師さんをはじめ祭りを楽しみにしていた方々のことを考えると、非常に残念な思いでいっぱいです。**

ただ、上記の歴史を考えると、改めて祭りは外の人が来るからやるものではないと思うので、実行委員会による公式（？）の「七夕絵どうろうまつり」がなくても、地域住民の有志で絵どうろうや竹飾りを出してくれたらいいと考えていました。

Q2. 今年度は有志によって、サンロード商店街や柳町商店街でイベントが行われました。例年と異なる規模とはいえ、絵どうろうまつりが開催されると聞いたときはどのように思いましたか？また、当日の様子を見た際の感想もお聞かせください。

そういう動きがあればいいと考えていたので、嬉しく感じました。また、商店街に限らず、何軒かでは竹飾り等を出しているところもあり、祭りの「心」はそういったところにあるのではないかと改めて実感しました。

Q3. 私たちがこれまで行ってきた来場者アンケートの中で、少子高齢化や若者不足から、まつりが衰退してしまうかもしれない…という声が聞かれました。まつりの伝統継承に関して、不安はありますか？

実際、絵師や商店街の担い手不足は深刻だと思います。ただ、少子化・高齢化は止めることはできないので、それを前提として、**あるべき姿を考え、何を残し、何を変えるのかを検討し、前に進んでいく必要がある**と思います。

Q4. 今後の絵どうろうまつりを、運営側としてはどのように盛り上げていきたいですか？

担い手不足は大きな課題としてありますが、その中でもよりよい祭りとは何か、担い手や住民の声をしっかりと聞きながら盛り上げていければと思います。

Q5. 最後に、あなたにとって湯沢七夕絵どうろうまつりとは？

地域外の出身なので、小さい頃の思い出などはありませんが、地域の方々にとって重要な祭りであることを強く感じています。そういうお祭りを、より良い形で継承していくけるよう、尽力できればと思います。

有志イベントの来場者ヘインタビュー（2020年8月1日）

七夕絵どうろうまつりが中止になってどう感じましたか？

- ・コロナだから仕方ないのかなとは思いますが、悲しいですね。（25歳男性）
- ・毎年来ていたので、楽しみの一つがなくなったなあ～と。（16歳女性）
- ・することないなあ。楽しみがなくなっちゃったので寂しいです（14歳女性）
- ・残念ですけど、しょうがないと思います。（18歳男性）
- ・寂しいですね。子どもの頃から見てお祭りなので。中心部の住民ではないけれど、やっぱり夏にそういうお祭りがあるのは当たり前だと思っていたし、今自分に子どもがいる立場だと、自分の子どもを連れてきて、「湯沢にこういうお祭りがあるんだよ、楽しいでしょ？」って思い出の一つになるものがないっていうのは寂しいです。（40代男性）
- ・残念ですね、地元としては。やっぱり楽しみにしていたので。縁日とか金魚すくいとかなくなっちゃって、絵どうろうは見れるんですけど、子供はやっぱり屋台が…大人もかもしれないですけどね（笑）（50代女性）

有志イベントが開催されていることについてどう思いますか？

- ・寂しい。やっているのかやってないのかわからなかったしね。（16歳女性）
- ・無いよりはまし。でもいつもよりは活気がないなあ。（14歳女性）
- ・小規模開催でも町に活気があたえられるのならいいんじゃないかな。（18歳男性）
- ・厳しい状況のなかで、できるだけ感染しないよう注意を払いながらも、自分でできる範囲、手が届く範囲がどこまでなのかって凄く吟味されてやっているんだろうなってことですごくありがたいですし、頼もしいですって感じがしますね。（40代男性）
- ・私たちも初めて来たんですけど、例年はこうじゃないんだろうなって。やっぱりコロナの影響で、この程度の人しかいないんじゃないかなって。さっきチラシ見て、寄っていこうかなと思ってきました。（市外、50代女性）
- ・嬉しいですね。あんまり大々的にやっているっていうことを知られてないので、安心して来られます。（40代女性）
- ・子どもたちは全然お祭りが無くてがっかりしていたので、すごく良い機会です。（30代女性）
- ・お祭りが継承されていくってことでいいと思います。（60代女性）
- ・やってくれるのが嬉しい。全部無くなるよりだったら、ちっちゃくても楽しめればいいかなって。進学で来年から県外に出ちゃうから、最後に思い出をつくりたかったのでよかつ

た。(18歳女性)

来年以降の七夕絵どうろうまつりへの要望や期待はありますか？

・もうちょっとアピールというか、広報活動が足りてないかなと。市外に住んでた時に七夕なんて知らなかったので、そういうのをもうちょっと頑張ればいいんじゃないかなと。

(18歳男性)

・コロナが収まあっても、今新しい生活様式って言われているから、今まで通りはできないかもしないけど、またみんなが集まって、他県に行ってる人たちも気兼ねなく帰って来られて、またそこの交差点とかで「あ！久しぶり～」とかってやってるわけよ。そういう姿を見たいよねって思います。(40代男性)

・例年通りいっぱい的屋さんがあれば。やっぱり子どもが的屋ないからつまんないって(笑)それが楽しみなので…。(40代女性)

・特に！今までの十分楽しめるので。(18歳女性)

・いつものように復活できて、屋台とか買って、みんなで楽しめればいいな。(60代女性)

・落ち着いてれば、今まで通りの七夕やってほしいです。(25歳男性)

地元のおまつりは誇らしいですか？

・結構誇らしいよね。県外からも来るもんね！(16歳女性)

・誇らしいですよ。皆頑張っていますから。(40代男性)

・うん！絵どうろうも他じゃ見られないので、誇らしいです。(18歳女性)

・参加型がいいですよね。見るだけじゃないですか。(20代後半男性)

・誇らしいです。何もないよりもお祭りがあるほうが。(30代男性)

・そうですね。綺麗ですし。(60代女性)

・はい。シャッター街になっていたので、そういうのあれば結構人も集まってくるのかなと。

(25歳男性)



アンケート調査

対象者

地元の中学校2年生

湯沢北中学校・湯沢南中学校・山田中学校



目的

後継者不足が課題となっていることから、

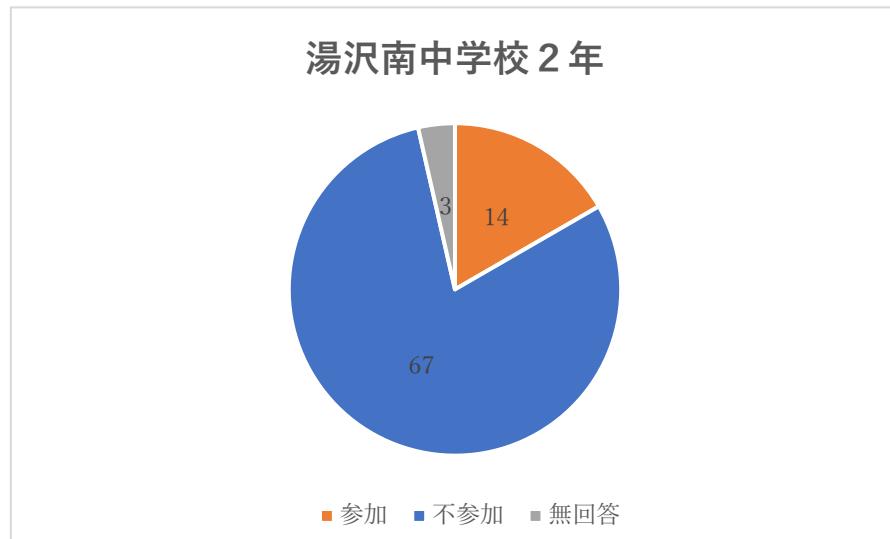
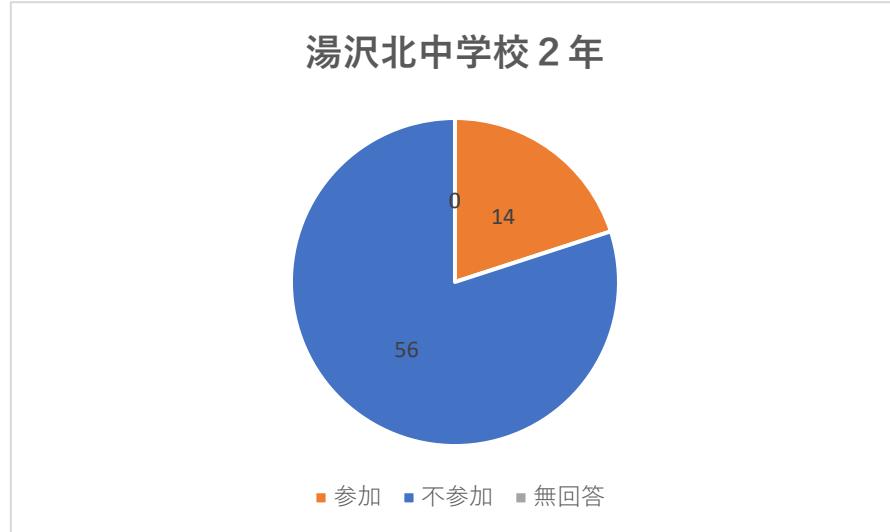
地元の若者からみたまつりに対する意見・印象を調査する。

仮説

「まつりが中止となってしまい悲しい」「地元のまつりは誇らしく思う」といった意見が多いならば、今後まつりの衰退を防ぐ可能性はあると考えられる。

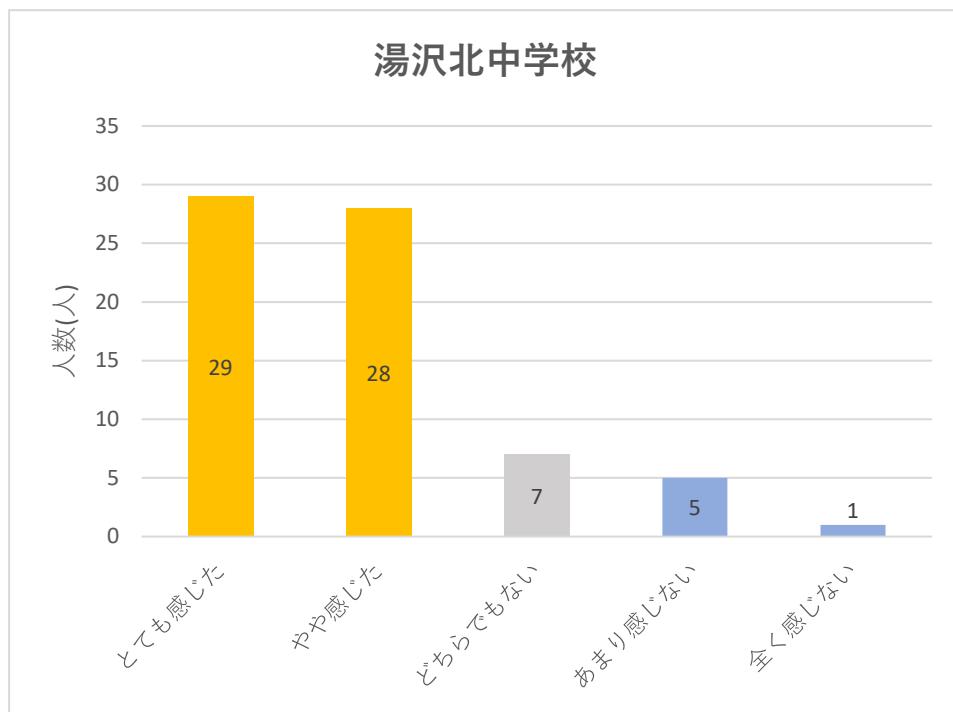
質問1

今年度、サンロード商店街や柳町商店街で有志開催された絵どうろうのイベントへ行きましたか？



質問2

これまで毎年開催されてきたまつりの中止を受けて、寂しいと感じましたか？



その理由

1) とても感じた

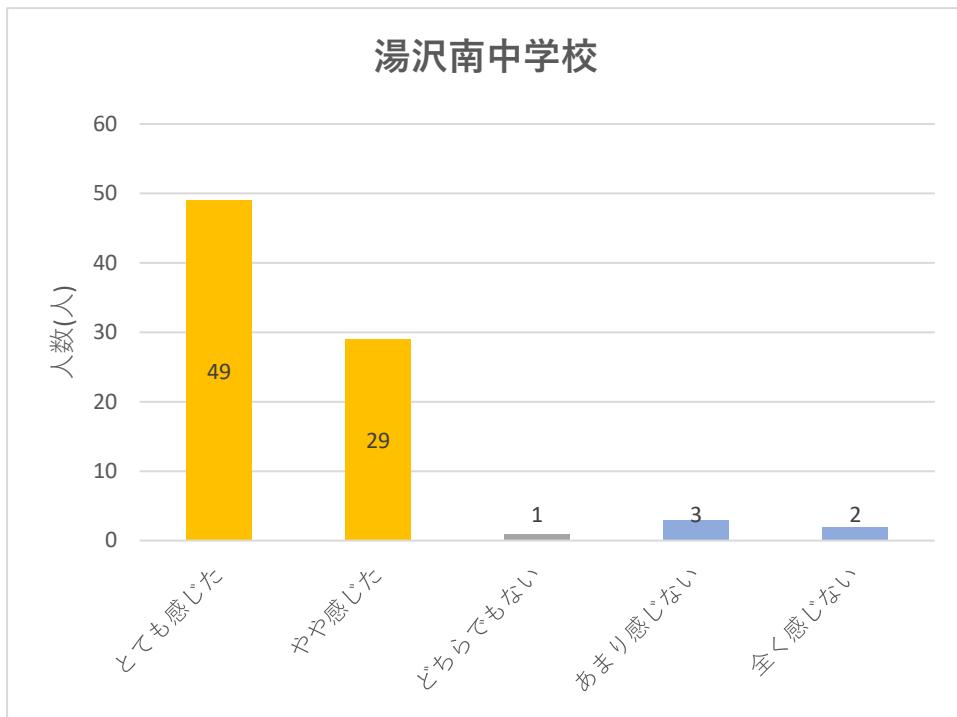
- ほとんど毎年行っていたので、今年開催されなかつたのは残念だった
- 夏休みに友達や家族で行くことがあって、毎回楽しみにしていたから
- とても長い伝統のある行事だし、湯沢市民みんなが楽しみにしていたお祭りだから
- 夜の絵どうろうはとても美しく、本格的なものから子供の作品までとても素敵だから
- 屋台を楽しみにしていたから

2) やや感じた

- 1つの楽しみが減ったし、友達との思い出が作れなかつた
- 毎年友達と行っていたので少し残念
- コロナが流行っていたため中止かなと思っていたから
- 少しショックを受けたが、他にお祭りのようなものがあったから
- 友達と毎年楽しく参加していた祭りがなくなるのは、コミュニケーションの場が減つてしまふから

3) どちらでもない、あまり感じない、全く感じない

- あまり興味がないから
- 新型コロナウイルスのリスクが高くなるため中止しても仕方ないと思ったから
- 家でも家族以外の人と話せるから



その理由

1) とても感じた

- 毎年友人や親と一緒に楽しんでいた祭りがなく、とても寂しかったから
- ほぼ毎年行っていて、とても楽しく、思い出に残るので寂しく感じた
- これまで当たり前のように行っていた祭りがなくなってしまい楽しみがなくなってしまったから
- 活気がなく、友達との思い出も作れないから
- 每年行っていて、自分たちも七夕のことを調べたりしていたから

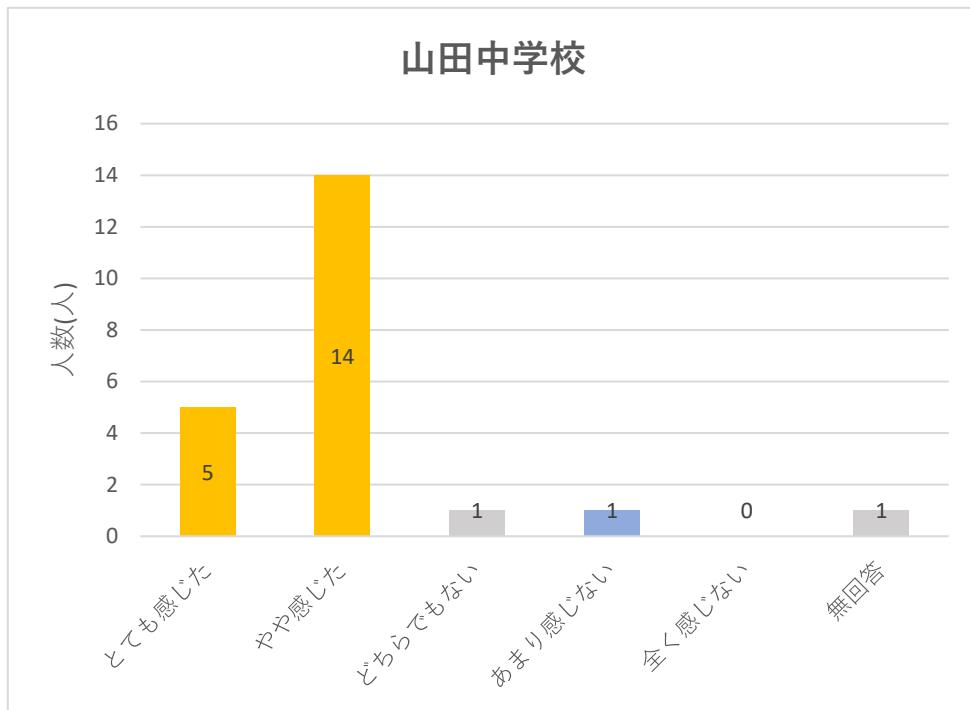
2) やや感じた

- 他に楽しい行事がなくなってしまったから
- 每年友達と行っていたので夏の楽しみの一つがなくなったから
- 友達と祭りに行く回数が減ってしまったから
- 友達などと楽しむ時間が無くなってしまったし、地域の人との関わりも減った

3) どちらでもない、あまり感じない、全く感じない

- コロナだからしょうがないと思う
- 祭り自体、進んで行かないから

山田中学校は、まつり会場から離れていることから、寂しさの比重が他校とは、少し異なっていることが分かります。



その理由

1) とても感じた

- 毎年行っていたので、中止になって悲しいなと思った
- 楽しみにしていた絵どうろうまつりがなくなったから
- 每年友達と行って楽しみにしていたため寂しいなと思った
- 友人と見れらないから
- 每年友達と予定を合わせて行っていたため

2) やや感じた

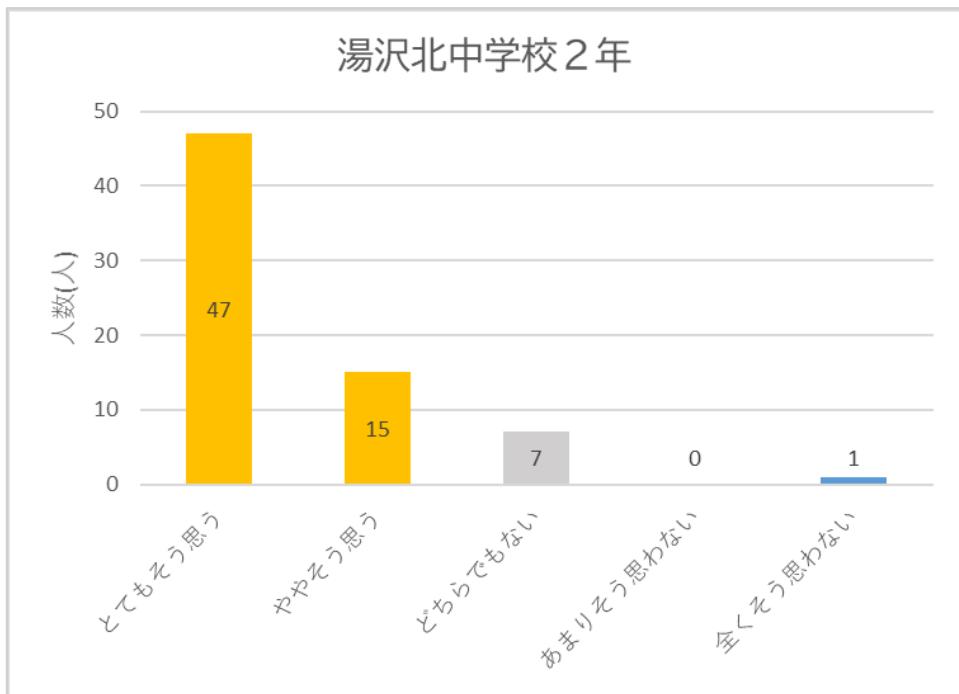
- 夏の楽しみの1つがなくなってしまったから
- 夏の一番の行事だから
- 每年行っていたから
- 毎年開催されていて人が沢山いたので寂しいなと感じた
- 去年友達や家族と一杯行って楽しかったのに、今年行けなかったから
- コロナもあり、とてもとは感じなかったが、絵が好きだったので寂しかった
- コロナウィルスがあるため仕方ないとと思ったが、毎年開催されてきて、七夕の日にはサンロードが明るくなるのでそれがなくなり寂しいなと思った

3) どちらでもない、あまり感じない、全く感じない

- 祭りに行くことが少ないから
- 普段開催されているときも行っていなかったから

質問3

あなたは地元のまつりを誇らしく思いますか？



その理由

1) とても思う

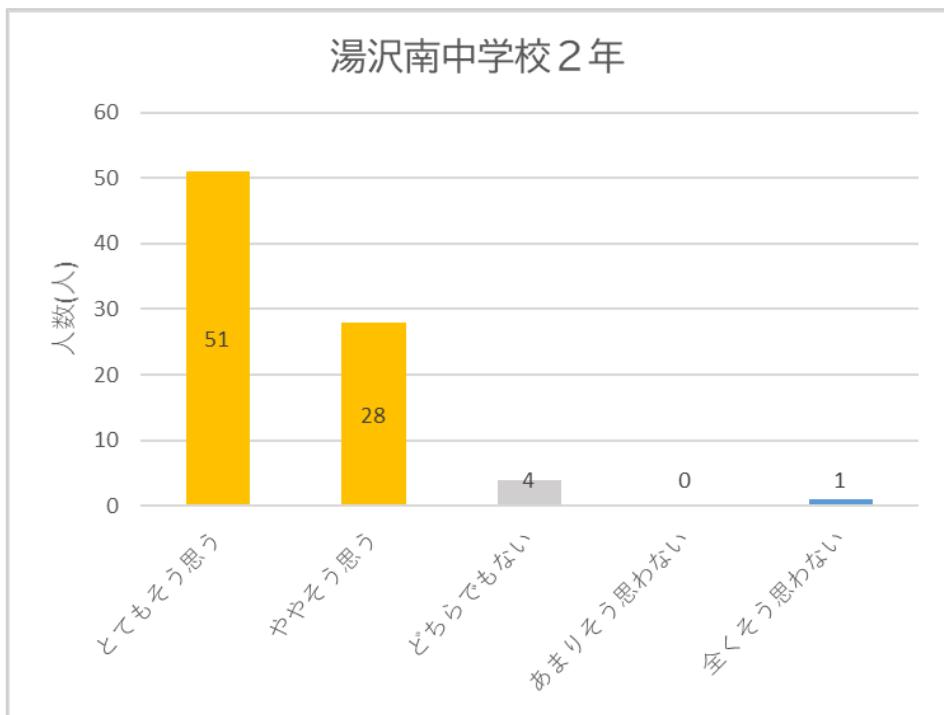
- 町おこしにもなるし有名だから
- 祭りがない地域もある中で独自の祭りがあるから
- 地元の伝統的な祭りで誇らしいと思う
- 後世に残してくれている人がいるから、自分たちも地元の祭りを継いでいきたいと思ったから
- とてもきれいだから
- 文化を大切にしたいから

2) やや思う

- 多くの人が祭りにかかわり頑張っているから
- 多くの人が楽しんでいるから
- 地元だけでなく他県からも人が来るから
- 自分の描いた絵どうろうが飾られてうれしかった

3) どちらでもない、あまり思うわない、全く思うない

- 特に関心がないから
- 自分がやっていない
- 出店が少ない



その理由

1) とてもそう思う

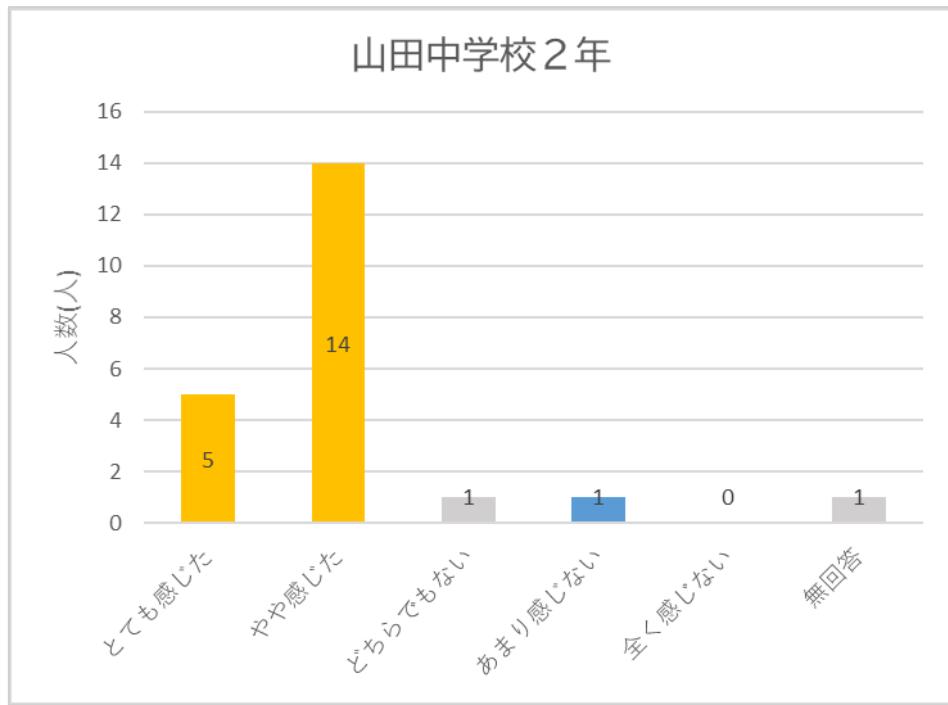
- 世界にたった一つだけの祭りだから
- 地元ならではの祭りだから
- 外国の方や他の県の人にも来ていただけるから
- 職人が作る絵どうろうは印象強く目に残り、とても美しいから
- 地元の人たちが描いた絵どうろうが展示されるのは良いことだと思うから

2) ややそう思う

- 他の地域にないし、きれいだから
- 海外から来ている人が沢山いるので、色んなところに広まっているのは嬉しい
- 歴史のある祭りだから
- 湯沢の魅力だと思うから
- 唯一地域の人たちと交流できるから

3) どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない

- それぞれの地方には特有の祭りがあり、それぞれ内容が全然違うから
- どこでもやっているのでどちらともいえない



その理由

1) とてもそう思う

- 犬っこ祭りや七夕絵どうろうまつりなど古くから続く伝統的なお祭りが自分の地元にあり、誇らしい
- 祭りに行った人がみんな笑顔になっているから
- 伝統を感じる
- 地域特有の祭りだから
- 東北でも有名だから

2) ややそう思う

- みんなが集まって見に来る、有名な祭りだから
- 伝統的な祭りだから
- 近くにお祭りがあり楽しい

3) どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない

- よくわからない

今後の湯沢七夕絵どうろうまつりに対して、
ご意見・ご要望がありましたら、教えてください！（自由記述）



- ・ゴミ箱や休憩スペースを増やしてほしい
- ・ポイ捨てを減らす対策をしてほしい
- ・トイレに行ける場所を掲示してほしい
- ・もし今後も中止となったら商店街に絵どうろうだけを置いて、それを見て回るようにビデオをとって、湯沢市のHPに載せるといいと
思います。
- ・写真スポットをもっと作ってほしい
- ・絵どうろうまつりで色々なことを経験していきたい
- ・地域の人々を元気づける絵どうろうを作ってほしい
- ・その場でみんなで作る大きい絵どうろう
- ・照明器具を増やしてほしい
- ・今まで通りでも十分楽しいです

この他にも、たくさんの貴重なご意見をありがとうございました！

以上の意見を踏まえると、仮説通りになります！

仮説

「まつりが中止となってしまい悲しい」「地元のまつりは誇らしく思う」といった意見が多いならば、今後まつりの衰退を防ぐ可能性はあると考えられる。

しかし、アンケート調査の自由記述では、以下のような意見も…

絵どうろうまつりに対して、屋台やイベントを求める声が多く聞かれました！

- ・例年通り屋台をたくさん置いてほしいです
- ・最近流行っているものを屋台で出してほしい
- ・有名人を呼んだイベントを開催してほしい
- ・うどんエキスポの際のメロンパンを出してほしい
- ・市役所の外壁にプロジェクトマッピングをやってほしい
- ・お化け屋敷、映えスポット
- ・激辛や大食い大会をやりたい

一方で、インタビュー調査より、商店街の方々にお話を伺った際には…

これは“静のまつり”だから、絵どうろをメインに、じっくりと風情を楽しむ祭りにしていきたい！という意見がありました。

- ・屋台によって賑やかにはなるんだけど、
その分、竹や絵どうろが浮き立たないんだよね。
- ・このお祭りは“静のまつり”だから。他のお祭りとは違って、
静かに見て回るまつりだから、「そこがいいよね！」って
話しています。

インタビュー調査とアンケート調査から分かったこと

世代や立場によって、
まつりに対して求めるもの・楽しさにズレが生じている！！

屋台もっと増やしてほしい！
有名人を呼んだイベントを！

露店よりも絵どうろうの
風情を楽しみたい

このギャップをどのように埋めていくのかが、
今後、絵どうろうまつりを繋げていくために重要な課題と
なるのではないしょうか？

そのために、以下のような取り組みを考えました。

★祖父母世代・親世代・子世代で絵どうろ
うまつりについて話し合う交流会

★昔の絵どうろうまつり（準備作業やまつり
当日の様子）と今の絵どうろうまつりでは
何が違うのか？どんな楽しみ方があるの
か？

★「湯沢のお祭りって何？」ということを、
みんなで考える必要がある



塗り絵コンテスト 審査結果の紹介

今年度はコロナウイルスの影響で、湯沢七夕絵どうろうまつりが中止となっていました。その中でも、おうち時間を活かしつつ、絵どうろうの魅力を発信したい！もっと多くの人に知ってもらいたい！という思いから、塗り絵コンテスト「#みんなでゆざわの絵どうろう」を開催しました！

ここでは、塗り絵コンテストで受賞された8つの作品を、
絵師さんから頂いたコメントと共にご紹介します！

97作品の素敵な塗り絵が届きました！
参加してくれたみんなありがとう！



塗り絵コンテスト「#みんなでゆざわの絵どうろう」の概要

開催期間

2020年8月5日（水）～9月30日（水）

塗り絵の種類

美人画A,Bとアニメ画C,Dの計4種類。

美人画の下絵は、絵師の平塚留美さん、アニメ画の下絵は、絵師の小崎嘉純さんにご提供していただきました。



美人画 A



美人画 B



アニメ画 C



アニメ画 D

参加方法

SNS (Twitter・Instagram・Facebook) で「#みんなでゆざわの絵どうろう」を付けて、作品の画像と共に投稿すればOK!

塗り方について

本来の絵どうろは、制作にかなりの時間がかかるうえ、絵師さんの技術や経験が必要になります。しかし、今回は「湯沢の絵どうろに興味を持ってもらうきっかけ」を目的にしたので、塗り方に制限を設けませんでした！そのため、お姫様が身につけている着物や、背景、メイクアップも自由にできちゃいます！

審査方法

絵師の平塚留美さんと小崎嘉純さんに審査をしていただきました。

【SNSからの投稿 美人画 A,B】【SNSからの投稿 アニメ画 C,D】

【湯沢若草幼稚園の年長さん アニメ画 C,D】

【双葉幼稚園の年長さん アニメ画 C,D】

各部門から1つずつ、計8作品を選出しました！

地元の幼稚園の皆さん
ご協力ありがとうございました！

【SNSからの投稿】美人画 A

Twitterより、スズキさんの作品



留美さんからのコメント

宵闇に浮かびあがる女性の優美さに心を奪われました。夜桜をテーマにする目の付け所がよいです。幻想的でやわらかな光の中に、桜づくしの着物の華やかさが際立ち、凛とした表情を作りあげているように感じます。陰影による奥行き感、髪のツヤを意識した光の表現など、細やかな心遣いが伝わります。希望に満ちた春の訪れが待ち遠しくなる一枚です。

【SNSからの投稿】美人画 B

Twitterより、なみいろまーちさんの作品



留美さんからのコメント

掛け襟の着物を纏に着こなしているお姉さんが目に飛び込んできました。地味になりそうな格子模様にメリハリのきいた彩色があでやかです。日本髪の生え際の塗り方が自然な仕上がりで、地毛で結い上げている感じが出ているのがよいです。髪飾りには着物からチョイスされた各色が使われていて、さりげなくオシャレを楽しんでいる雰囲気に心惹かれます。

【SNS からの投稿】アニメ画 C

Instagram より、Aki さんの作品



小崎嘉純さんからのコメント

扇子の中のハートが可愛らしいです！色使いが個性的で、背景の花火と共にカラフルで良いですね！凄く印象に残りました。

【SNSからの投稿】アニメ画 C

Twitter & Instagram より、超神ネイガーさんの作品

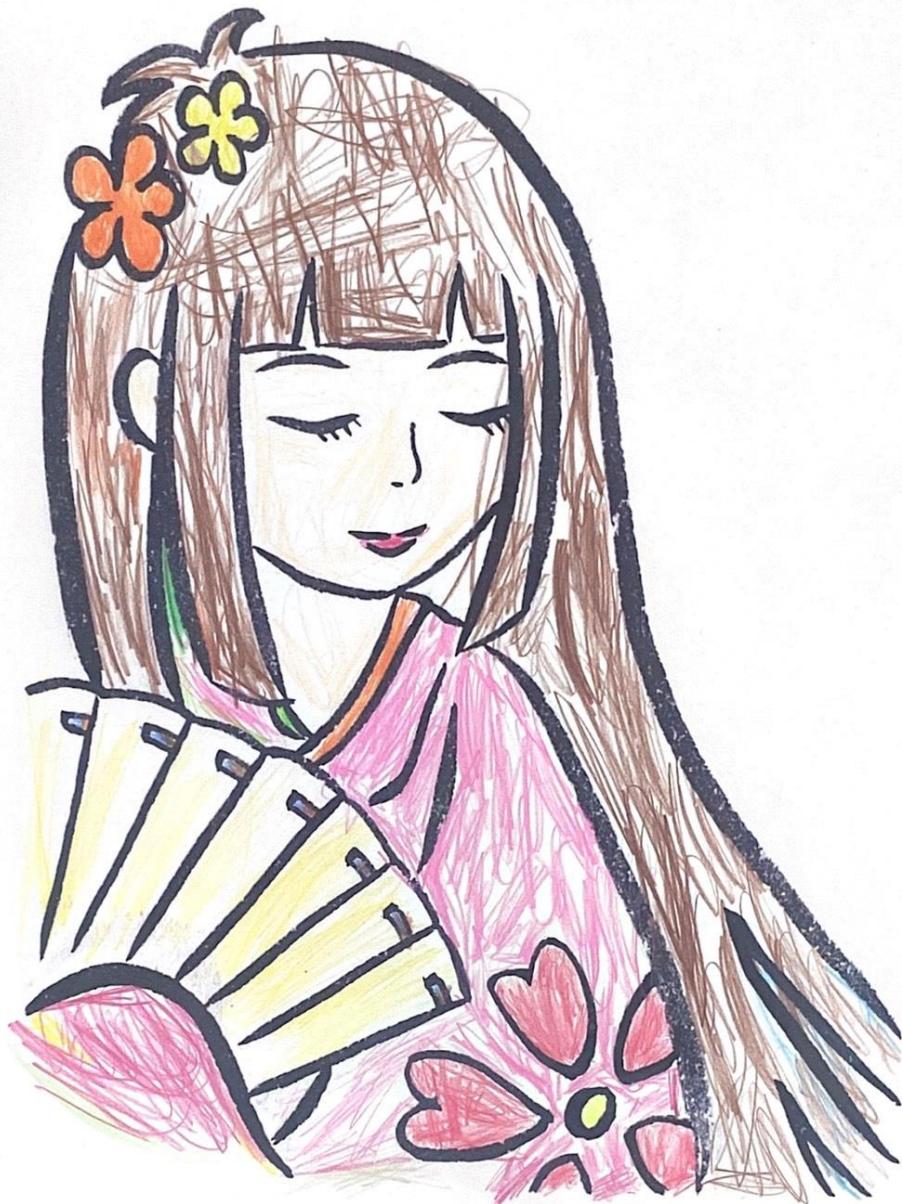


小崎嘉純さんからのコメント

月がホジナシになるとは思いませんでした。秋田弁を入れるなんて、流石ネイガーですね！短冊に願い事を書いてくれたので嬉しいです！

【湯沢若草幼稚園の年長さん】アニメ画 C

ぬまた まゆか さんの作品



協力：アキスター体験型事業

小崎嘉純さんからのコメント

この絵で扇子を持っている袖まで色を塗ってくれている
作品は少なく、完成度が高くて素晴らしいです！髪の毛も
流れに沿って塗っているので、とても風情がありますね。

【湯沢若草幼稚園の年長さん】アニメ画 D

たかく なほ さんの作品



協力：アキスター体験型事業

小崎嘉純さんからのコメント

バランスのよい塗り方です。赤色、黄色、緑色、肌色、黒色、
そしてアクセントのピンク色の短冊。夜のお空に、青色や
紫色の寒色があれば、もっと上手になれますよ！

【双葉幼稚園の年長さん】アニメ画C

高橋 怜夏 さんの作品



小崎嘉純さんからのコメント

じゅうにひとえにじかさか
十二単と虹を重ねて描いてくれたのかな？短冊も綺麗です！
きっちりと丁寧に塗られていますね。将来は大きい絵どうろう
も描いて欲しいです！

【双葉幼稚園の年長さん】アニメ画 D

太田 創志 さんの作品



小崎嘉純さんからのコメント

かお い がい き みどりいろ むらさきいろ しょく ひょうげん めずら
お顔以外、黄緑色と紫色の2色で表現されているのが珍
しいです。竹が他の植物に見える面白さも良いですね！

塗り絵コンテスト「#みんなでゆざわの絵どうろう」に
参加してくださった皆さん、このイベントを盛り上げて
くれてありがとうございました！

絵師の平塚留美さん、小崎嘉純さん
下絵のご提供に加え、沢山の作品を1枚ずつ丁寧に審査
していただき、ありがとうございました！

ご紹介した受賞作品だけでなく、投稿していただいたすべての作品は、
塗り絵コンテスト専用 Instagram（ユーザー名：edourou.nurie）で
誰でも見ることができます！

みんなでゆざわの絵どうろう



チェックしてみてね

最後に…

インタビューやアンケート調査から、

- ☆お話を聞き出すコミュニケーション力
- ☆商店街・絵師・運営のまつりに対する熱い思い
- ☆会場の近くに暮らす、10代若者の関心の高さ
- ☆伝統継承をしていくにも、時代に合った変化が必要

これらの事を学びました。また、各世代の思いをどのように組み込んでいくか、が今後の課題となります。

塗り絵コンテスト「#みんなでゆざわの絵どうろう」から

- ☆今の状況を考慮した、企画の提案をすること
- ☆提案から実行までのスピード感

これらが重要だと実感しました。

この冊子を通じて、改めて祭りを見つめなおし、まつりに関わる人びと同士でそれぞれの思いを共有すること、また、県内外関わらず、このまつりを知ってもらうことができれば幸いです。湯沢七夕絵どうろうまつりを未来へと繋げる、懸け橋となりますように。

湯沢七夕絵どうろうまつり実行委員会 SNS

Twitter



Instagram



Facebook



湯沢市の食・宿泊・イベントなど
観光及び物産振興に関する情報はこちらから！

一般社団法人 湯沢市観光物産協会ホームページ <http://akitayuzawa.jp/>